クボタトラクタ

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

火気厳禁

燃料（残量）

ディーゼル軽油

グロー

バッテリ充電異常

エンジンオイル

水温計

エンジン回転計

ホーン

方向指示器表示

エンジン停止

ヘッドライト

アクセル高

アクセル低

倍速 — 倍速ターン

は　じ　め　に

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

安　全　第　一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお， 表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補　足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいいたします。
なお，説明はGB145を基本とし，GB145と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

＜標準仕様＞

●マイコンモンローマチック付き .... M 仕様
●メカオート付き .... A 仕様
●倍速ターン付き .... B 仕様
●パワーステアリング付き .... S 仕様
●標準3点リンク・けん引ヒッチ付き .... P 仕様
●大径タイヤ .... J 仕様

＜ご当地仕様＞

●果樹園用（ターフタイヤ特別仕様）............ DA5 仕様
●果樹園用（低床特別仕様）.................... N 仕様
●さとうきび管理用 .... D9 仕様,B9 仕様
●畑作用3点リンク付き .... HP 仕様

目　次

⚠安全に作業するために

サービスと保証について

小型特殊自動車としての取扱い

運転に必要な各部の名称

運転前の点検

エンジンの始動と停止

トラクタの運転

油圧・三点リンク・PTO

モンローマチック［M 仕様］
メカオート［A 仕様］の取扱い

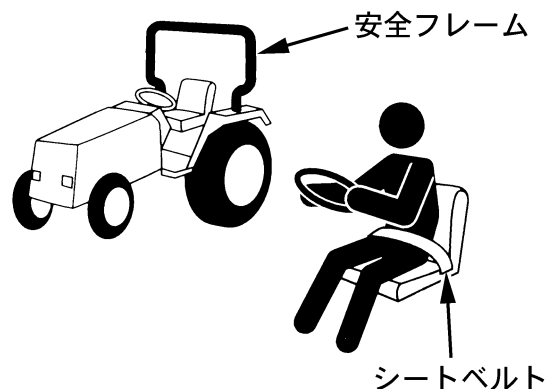
タイヤ・ウエイト

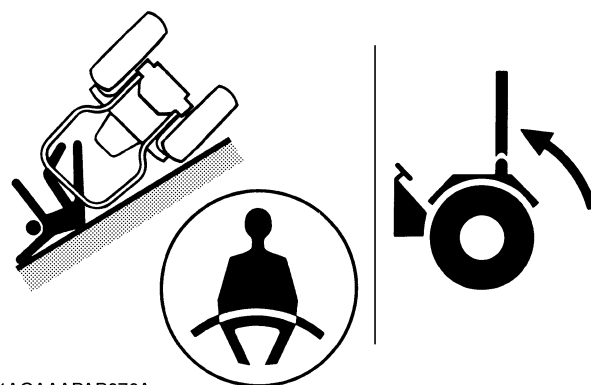
目　次

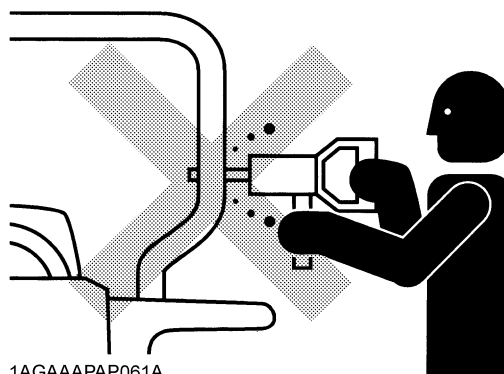
⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全フレームについて

安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

1AGAAAPAP087A

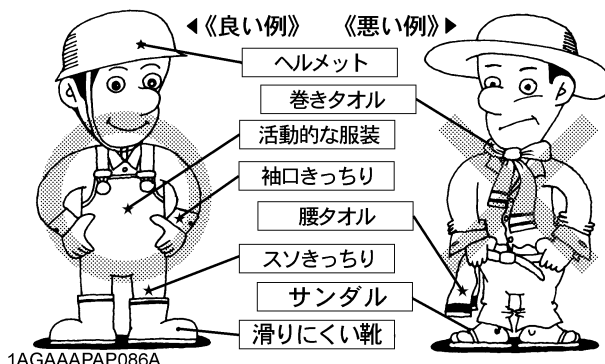
1. 運転時は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。
2. 安全フレームを取外して運転しないでください。
3. 納屋の出入り口等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
   安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
4. 安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
5. 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行ってください。

1AGAAAPAP076A

6. 安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

1AGAAAPAP061A

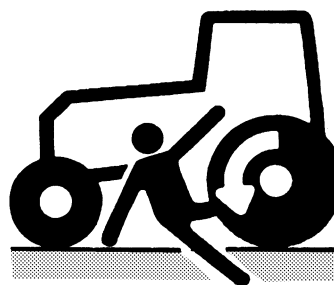
運転前に

1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

1AGAAAPAP062A

5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は **［トラクタの簡単な手入れと処置］** の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

1AGAAAPAP086A

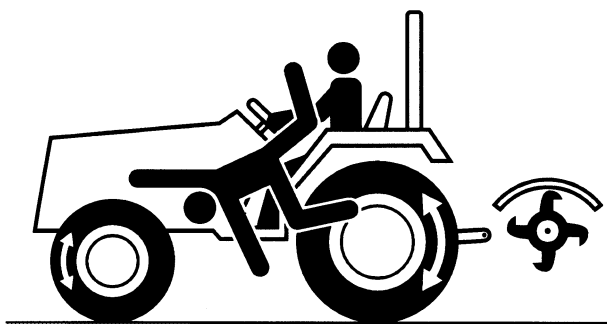
始動時に

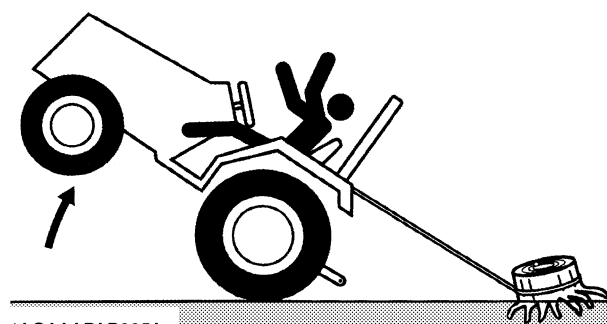
1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やPTO変速レバーが **［中立］** かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出す恐れがあります。

1AGAAAPAP084A

3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

1AGAAAPAP063A

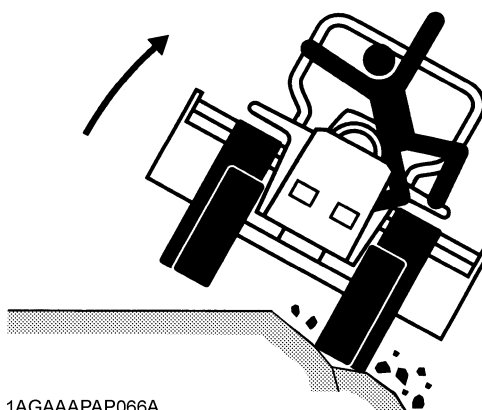
運転時に

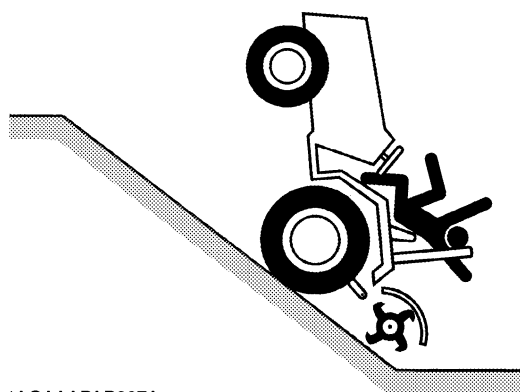
1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。

1AGAAAPAP064A

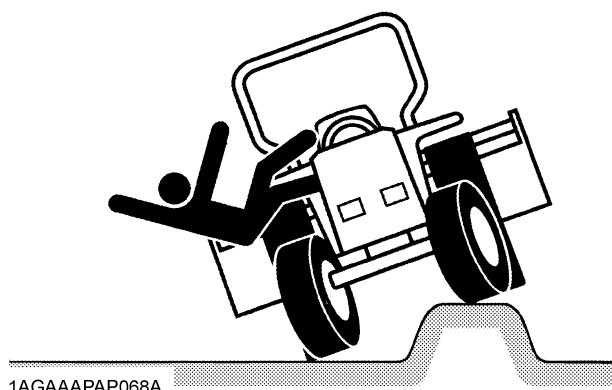
2. けん引作業には，けん引ヒッチ（別売）を用い， 絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
   トラクタの破損や転覆の原因となります。

1AGAAAPAP065A

3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。

1AGAAAPAP077A

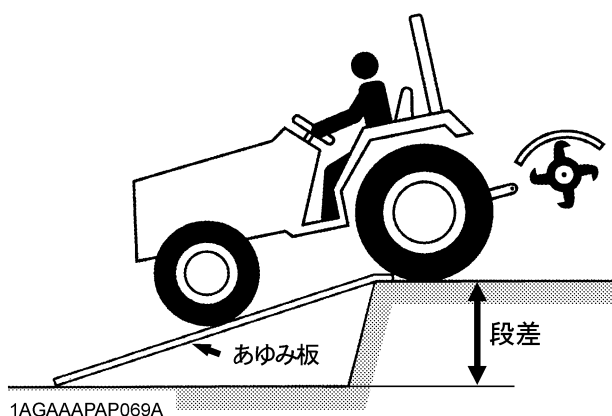
4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。

1AGAAAPAP066A

5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

1AGAAAPAP067A

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

1AGAAAPAP068A

8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
遅い方向に締めきるとロック（停止）します。

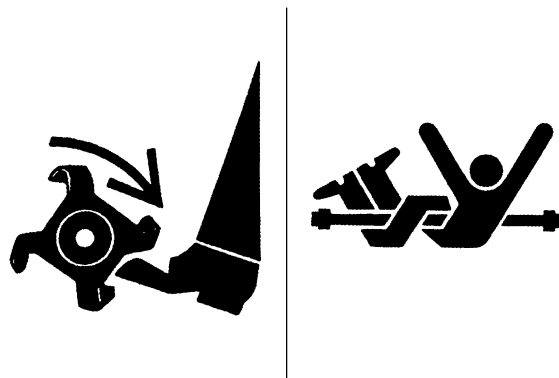
1AGAAAPAP048A

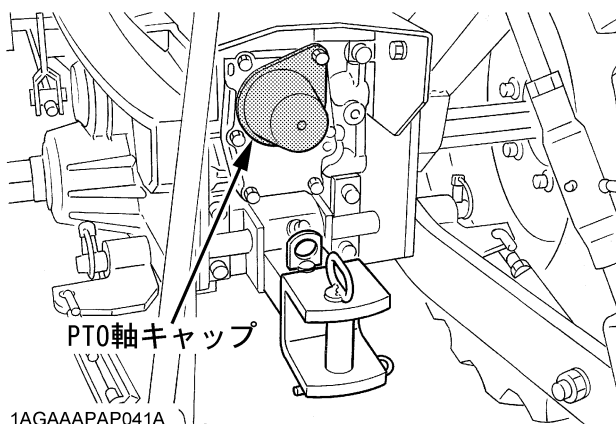
9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

1AGAAAPAP069A

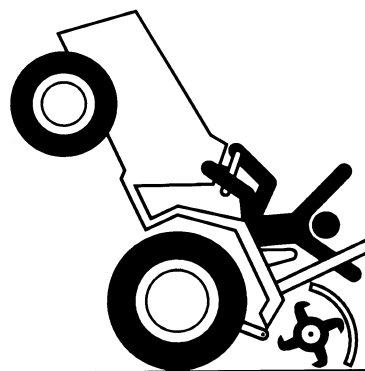
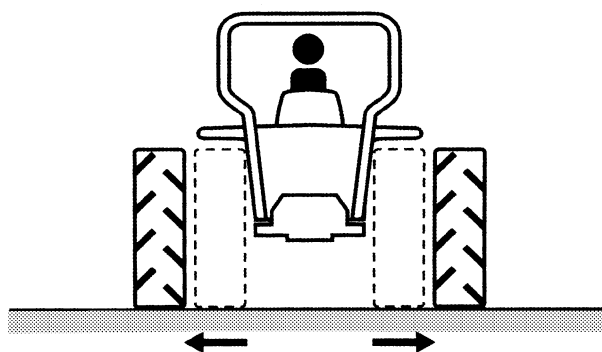
11. 倍速ターンはほ場以外では **[切り]** にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。

1AGAAAPAP085A

作業機使用時に

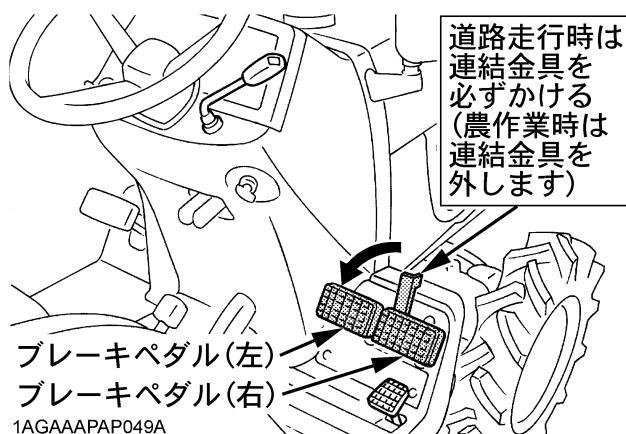
1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO 作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

1AGAAAPAP079A

3. PTO を使用しないときは，PTO 軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
5. PTO 作業機は，その作業機で定められたPTO 回転以上で使用しないでください。機械の破損や人身事故の恐れがあります。

1AGAAAPAP041A

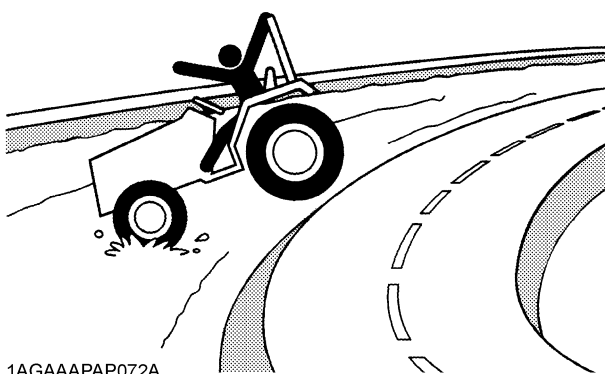
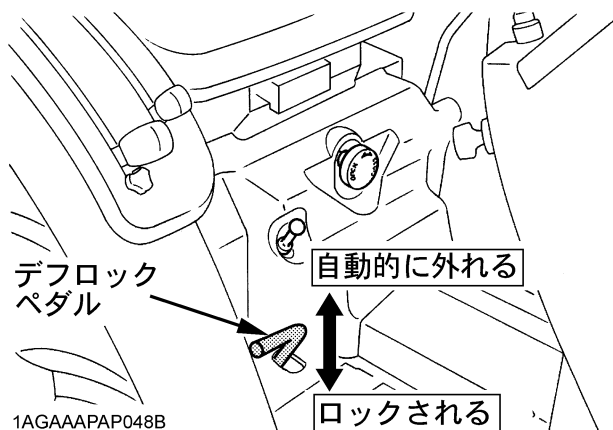
6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20 ％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

8. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。

道路走行時に

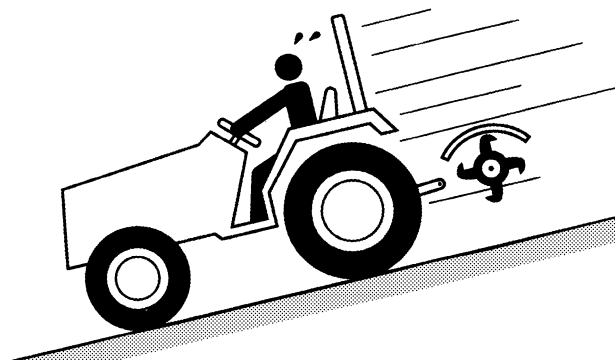
1. 道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。

1AGAAAPAP049A

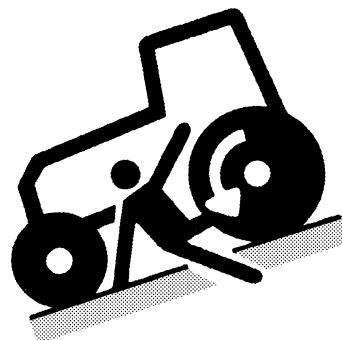
1AGAAAPAP071A

2. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。

1AGAAAPAP048B

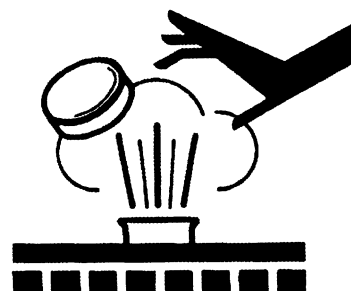
1AGAAAPAP072A

3. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

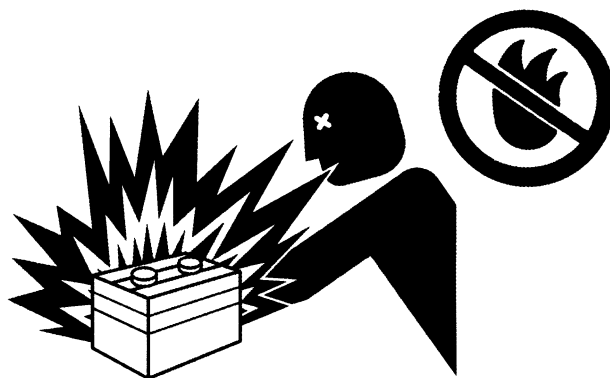
4. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。
操縦ができなくなる恐れがあります。
5. トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。
6. 交通や安全規則を守ってください。
運転免許証は，必ず携行してください。

1AGAAAPAP073A

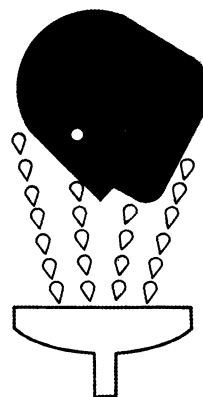
駐車、格納時に

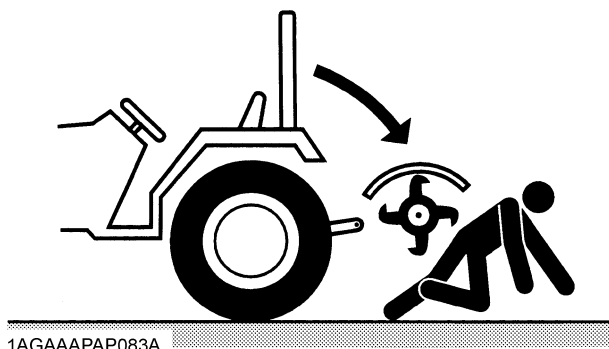
1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を **[切]**，作業機を **[下げ]**，各変速レバーを **[中立]**，駐車ブレーキを **[掛け]**，エンジンを **[停止]** してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。

1AGAAAPAP078A

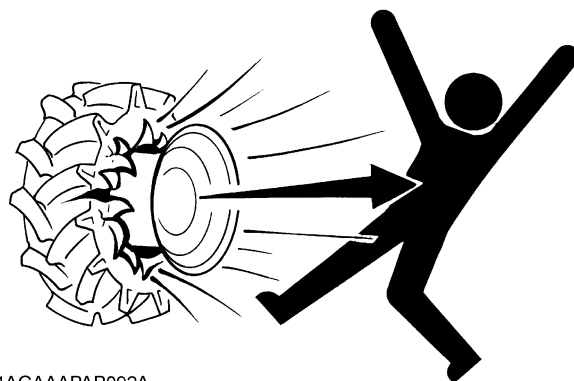
点検・給油・整備時に

1. 平たんな場所に駐車し，作業機を **［下げ］**，駐車ブレーキを **［掛け］**，各変速レバーを **［中立］** にし，そしてエンジンを停止してください。
2. エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。

1AGAAAPAP080A

3. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
   バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。
4. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
   （エンジンの始動と停止の章 **［バッテリあがりの処置］** を参照）

1AGAAAPAP074A

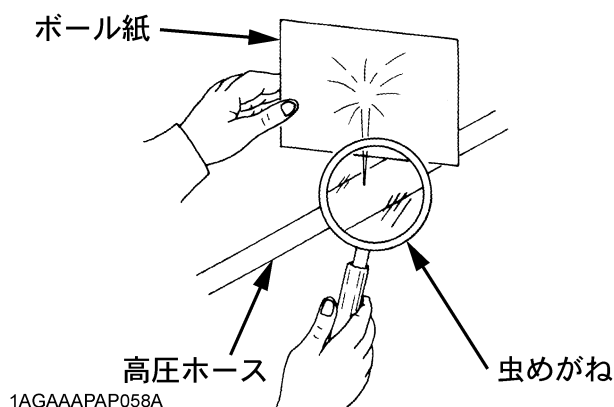
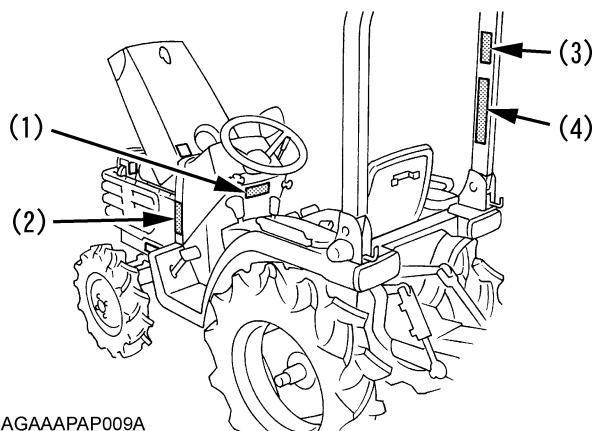
5. バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
   LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
   すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）
6. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
7. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

1AGAAAPAP075A

8. 作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

1AGAAAPAP083A

9. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂の恐れがあり死傷事故を引起こす原因になります。
10. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂の恐れがあります。
11. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

1AGAAAPAP092A

12. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

1AGAAAPAP081A

13. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

表示ラベルと貼付け位置

1AGAAAPAP009A

(1) 品番 6A100-4763-1［B 仕様］

警　告

転倒による死傷事故を防ぐために：
・倍速ターンは圃場以外で使用しないこと。
・高速で使用しないこと。

1AGAAAPAP115A

(2) 品番 6A100-4743-1

警告

トラクタが突然動きだす恐れがあるため
●地上に立って、エンジンを始動しないこと
●安全スイッチ回路を直結しないこと
●スタータを直結してエンジンを始動しないこと

1AGAAAPAP116A

(3) 品番 6A370-4741-1

警 告

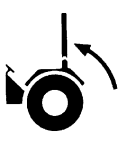
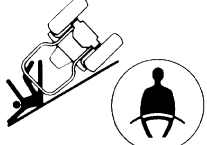
転倒による死傷事故をふせぐために，けん引は，けん引ヒッチを使用し，車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

1AGAAAPAP117A

(4) 品番 6A320-4753-1

注意

安全フレームを折りたたんたり、立てたりする時は、下記の手順を守ること。
1. エンシンを止める
2. 作業機をおろす
3. 駐車ブレーキをかける

レバーの操作方法

●安全フレームを折りたたむ時はレバーを A の方向に引いて止めて下さい。
●フレームをレバーか B の位置に戻るまて後方に倒して下さい。
●立てる時はフレームを元の位置に立てて下さい。レバーか B の位置に戻っていることを良く確認して御使用くたさい。詳しくは取扱説明書をよくお読み下さい。

1AGAAAPAP118A

1AGAAAPAP013B

(1) 品番 6A370-4755-1

警　告

転倒、事故による死傷事故軽減のために
- 納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
- 安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
- 安全フレームを折りたたんだ状態では、シートベルトを着用しないこと。

1AGAAAPAP119A

(3) 品番 T0180-4959-1

警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
- ＰＴＯ軸の回転中は近づかないこと
- 使用しないときは、ＰＴＯ軸キャップを装着すること

1AGAAAPAP121A

(2) 品番 67980-4907-1

注　意

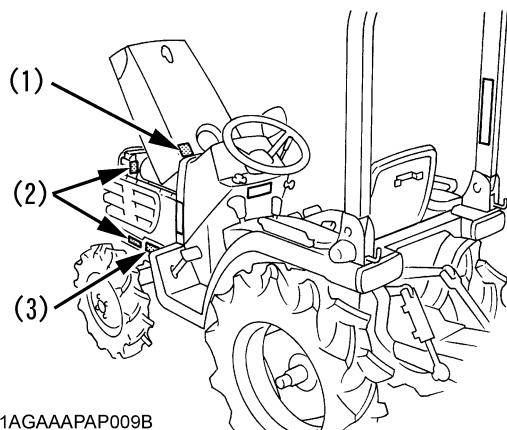
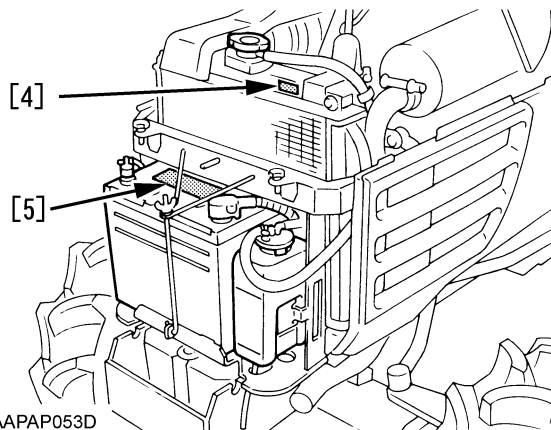
傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴の近く、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

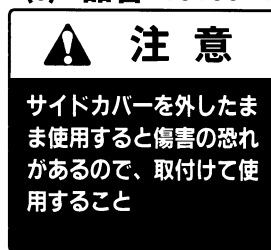
1AGAAAPAP120A

1AGAAAPAP009B

1AGAAAPAP053D

(1) 品番 3F740-9828-2

1AGAAAPAP122A

(2) 品番 T0180-4958-1

1AGAAAPAP123A

(3) 品番 T0180-4955-1

1AGAAAPAP124A

(4) 品番 6A320-4737-2

1AGAAAPAP125A

(5) 品番 5H522-4112-1

1AGAAAPAP126A

1AGAAAPAP010A

1AGAAAPAP039C

(1) 品番 6A370-4746-1

1AGAAAPAP127A

(2) 品番 T0180-4957-1

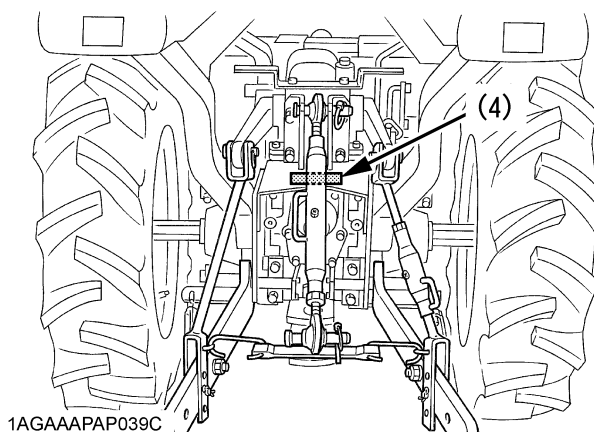
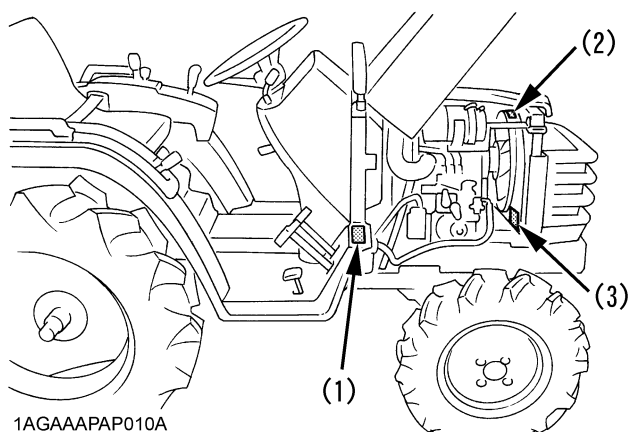
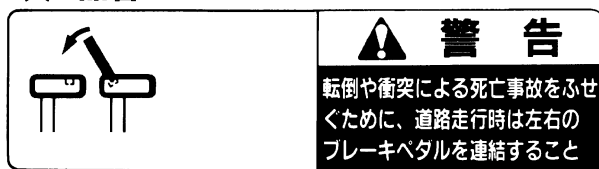
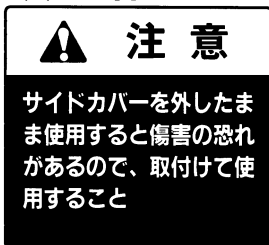
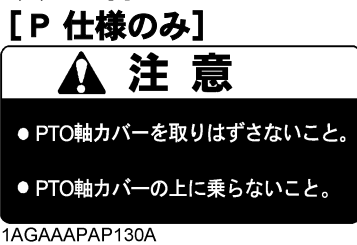
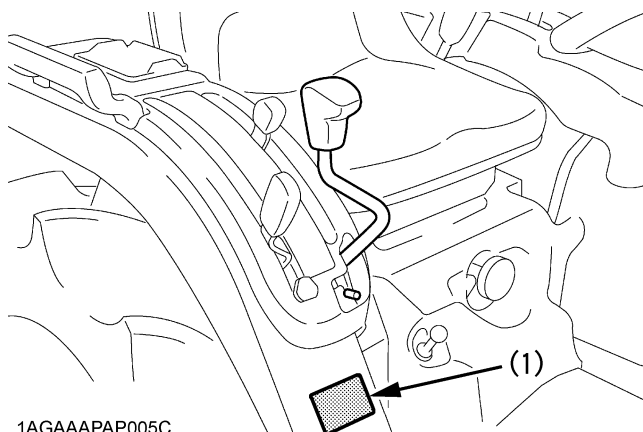
1AGAAAPAP128A

(3) 品番 T0180-4955-1

1AGAAAPAP129A

(4) 品番 6A100-4772-1
［P 仕様のみ］

注　意

- PTO軸カバーを取りはずさないこと。
- PTO軸カバーの上に乗らないこと。

1AGAAAPAP130A

(1) 品番 6A646-3852-1

注　意

・メカポンパレバーは、ロータリ、またはハローでの、ほ場内作業にのみ使用すること。
それ以外は、作業機の上げ下げを油圧レバーで行うこと。
・トラクタから降りる際には、ロックレバーでロックすること。

1AGAAAPAP131A

表示ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ **［ご相談窓口］** を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している

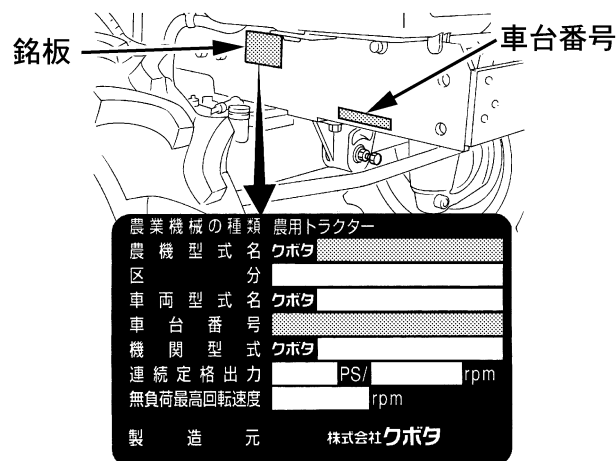
1．農機型式名と車台番号
2．機関型式とエンジン番号

を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

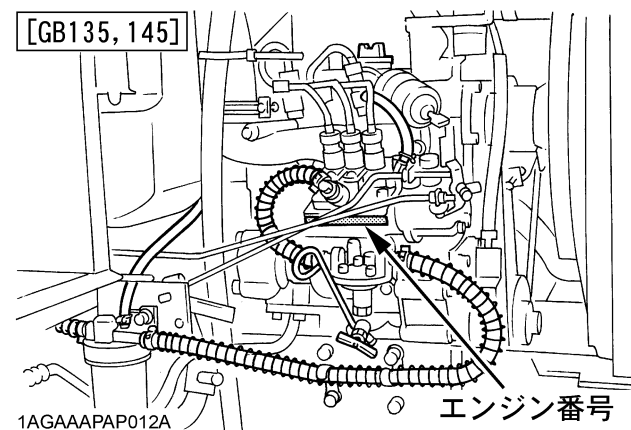
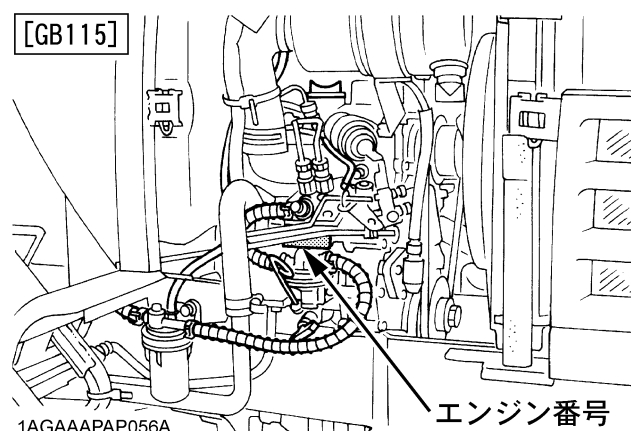
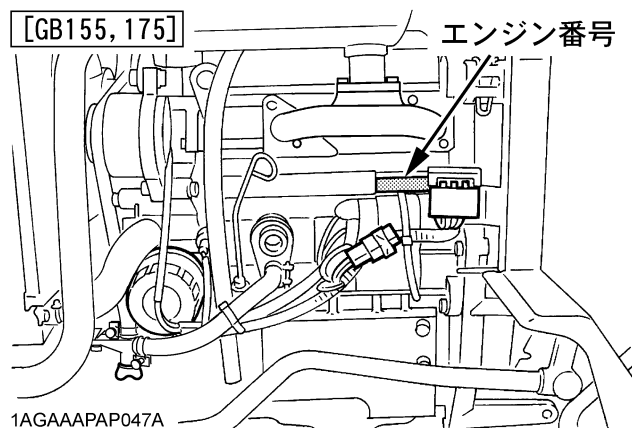
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
GB115	クボタ GB110	26147	クボタ AR	農 2206
GB135	クボタ GB130	26030	クボタ AM	農 2036，改造型
GB145	クボタ GB140	26031	クボタ AN	農 2037，改造型
GB155	クボタ GB150	26032	クボタ AP	農 2038，改造型
GB175	クボタ GB170	26033	クボタ AQ	農 2195

型式名（安全フレーム）	型式検査（国検）合格番号
クボタ SF-GB110 （P 仕様以外）	201015
クボタ SF-GB110-2 （P 仕様）	201016
クボタ SF-GB15	201006

＊検査成績表は巻末をご覧ください。

1AGAAAPAP011B

1AGAAAPAP056A

1AGAAAPAP012A

■ **補修用部品の供給年限について**

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

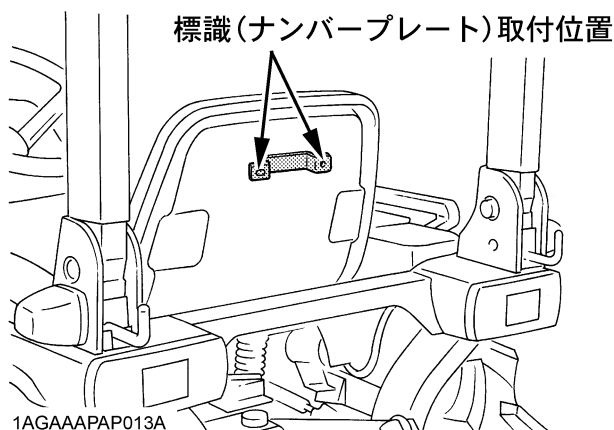
小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。

■ 運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

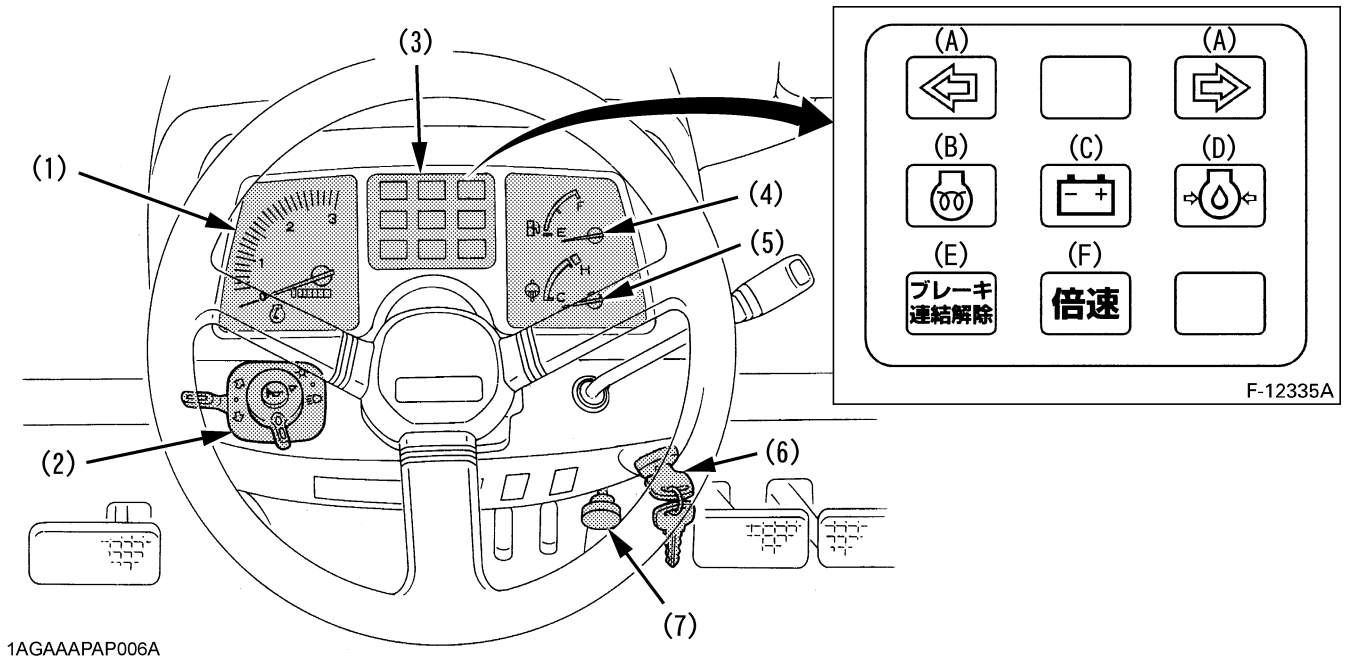
重　要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。（封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。）

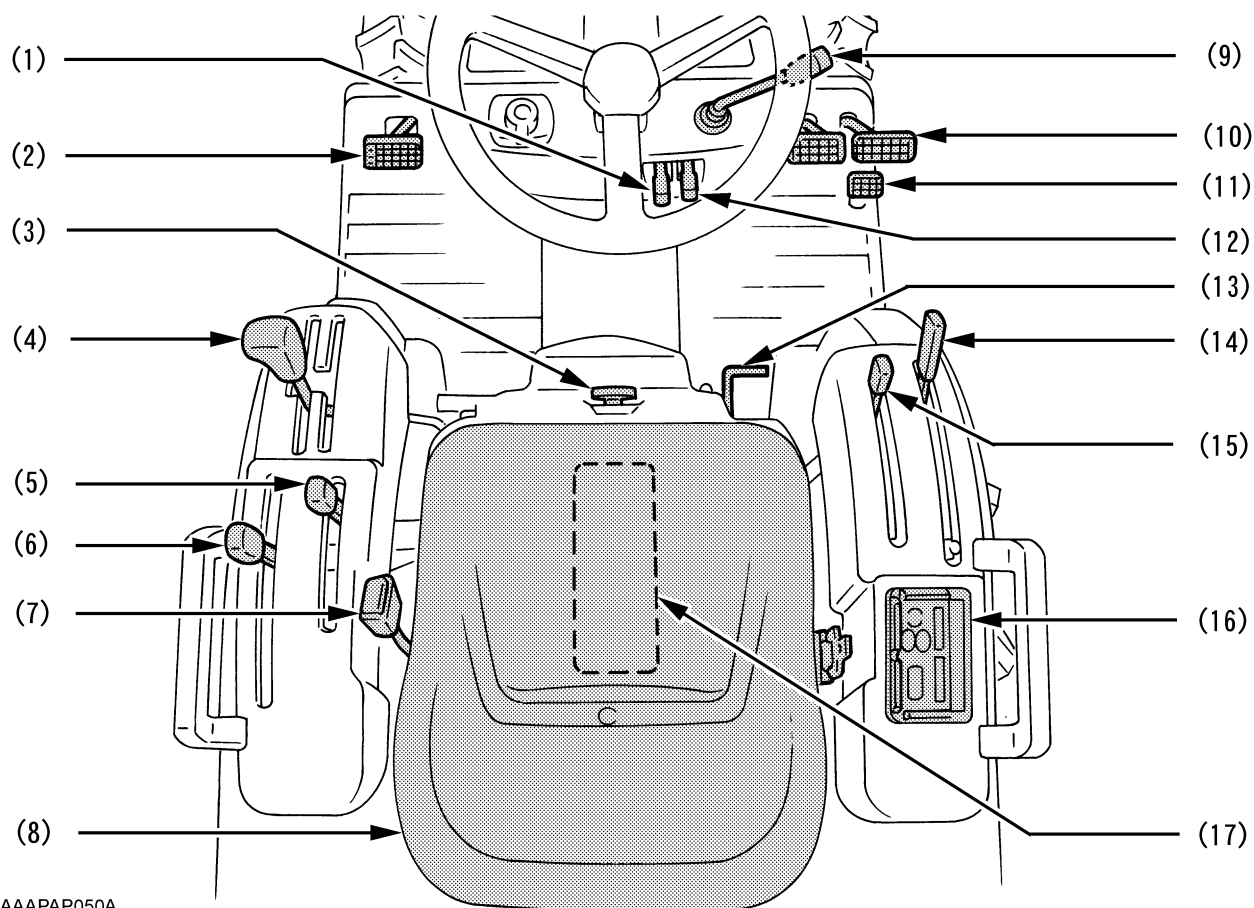
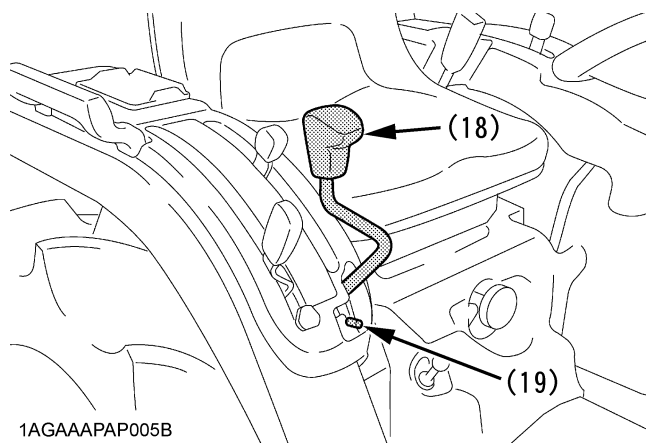
補　足

＊ インプルメントを装着した状態では **［道路運送車両法の保安基準］** を満足しませんので，道路走行することはできません。
＊ 作業灯は **［道路運送車両の保安基準］** 第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

参照ページ

(1) トラクタメータ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
(2) コンビネーションスイッチ・・・・・・・・・・・・・	15
ライティングスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・	15
ウインカスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
ホーンボタン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
(3) イージーチェッカ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
(A) ウインカパイロットランプ・・・・・・・・・	15
(B) グローランプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
(C) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）・・・・・・・・・・・・	20
(D) エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯）・・・・・・・・・・・・	20
(E) ブレーキ連結解除ランプ・・・・・・・・・・・	15
(F) 倍速ターンランプ **［B 仕様］**・・・・・・・・	16
(4) 燃料計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
(5) 水温計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
(6) キースイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
(7) エンジンストップノブ **[GB115, 135, 145]** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7,10

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17)

1AGAAAPAP050A

1AGAAAPAP005B

参照ページ

(1) 倍速ターンレバー **[B 仕様]** ········ 16
(2) クラッチペダル·················· 16
(3) 落下速度調整グリップ············· 27
(4) 主変速レバー··················· 7,18
(5) 副変速レバー··················· 18
(6)PTO 変速レバー················· 7,31
(7) シートベルト··················· 13
(8) シート······················· 13
(9) アクセルレバー·················· 18
(10) ブレーキペダル················· 15
(11) アクセルペダル················· 18
(12) 駐車ブレーキレバー·············· 7,19
(13) デフロックペダル················ 22
(14) 油圧（ポジションコントロール）
レバー························· 26
(15) オート耕深レバー **[A 仕様]** ······· 34
(16)M スイッチ **[M 仕様]** ············· 32
(17) 工具箱
[GB115, DA5 仕様 , N 仕様はなし] ··· -
(18) メカポンパレバー **[GB155, 175]** ····· 26
(19) ロックレバー **[GB155, 175]** ········· 27

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（点検方法の詳細は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の項を参照。）

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定**［クボタ純オイル］**を使用してください。

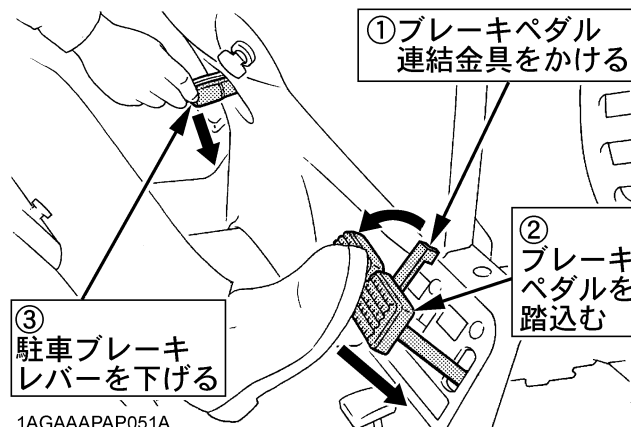
エンジンの始動と停止

警 告

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。
＊ トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速，副変速や PTO 変速レバーが［中立］（N）かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊ トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊ 室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

始動のしかた

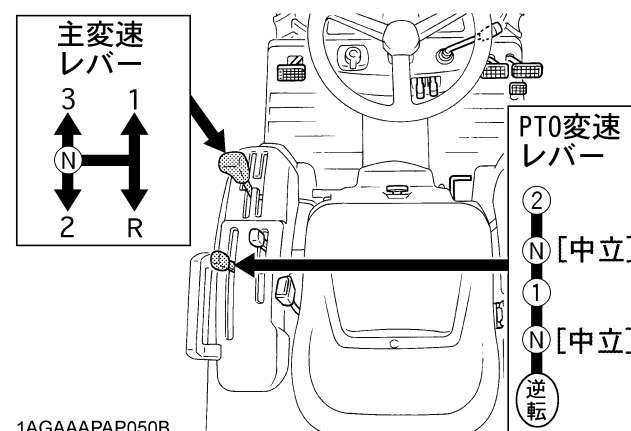
1. 駐車ブレーキをかけます。

1AGAAAPAP051A

2. エンジンストップノブが戻っているか確認します。［GB115・135・145］

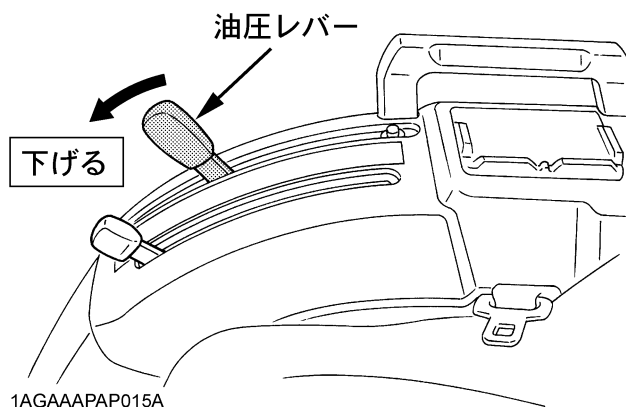
1AGAAAPAP014A

3. 主変速レバー，PTO 変速レバーを［中立］（N）にします。

1AGAAAPAP050B

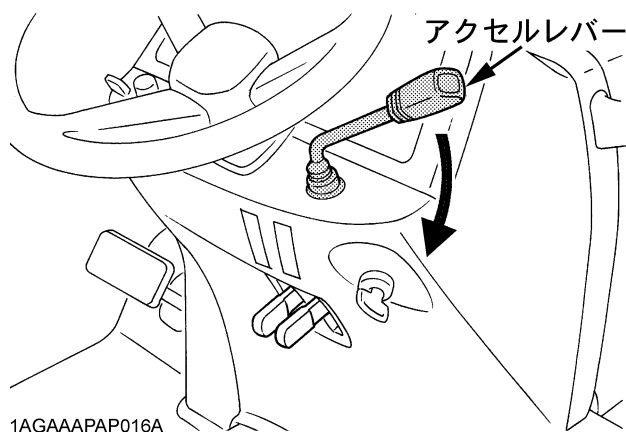
補 足

＊ 主変速レバー及び PTO 変速レバーを **［中立］（N）** にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

4. 油圧レバーを［前方に倒し］作業機を下げます。

1AGAAAPAP015A

補　足

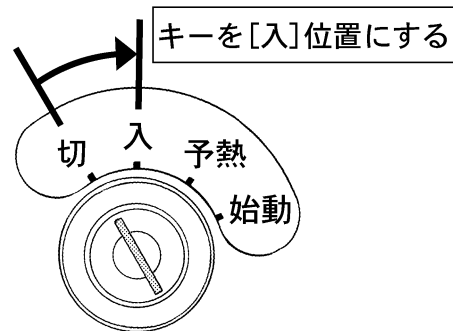
＊ 油圧ロックされている場合，作業機は下がりません。
（詳細は **［油圧］** の項を参照）

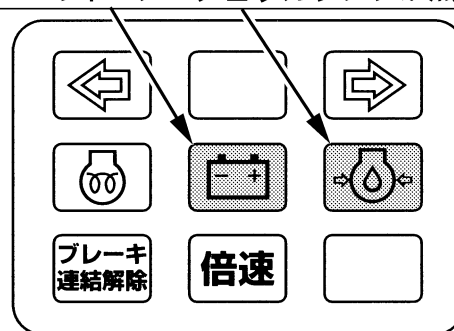
5. アクセルレバーを［中程］まで引きます。

1AGAAAPAP016A

6. クラッチペダルを［踏込み］ます。

補　足

＊ エンジンはクラッチペダルを踏まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

7. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

1AGAAAPAP091A

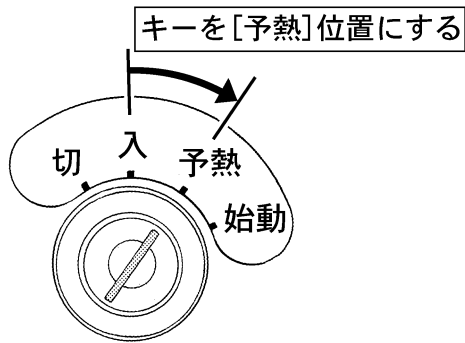
キースイッチを **［入］** 位置にすると，イージーチェッカランプが点灯します。

1AGAAAPAP042A

補　足

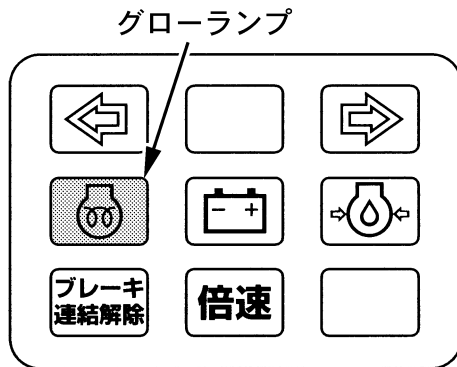
＊ 倍速ターンレバーが **［入］** のとき，倍速ターンランプも点灯します。**［B 仕様］**

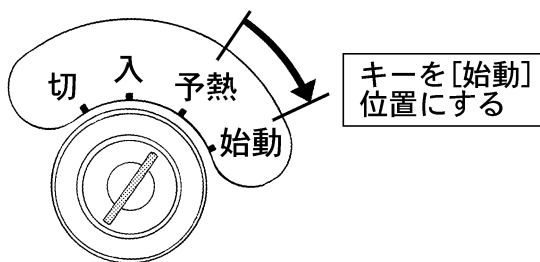
8. キーを［予熱］位置に回します。

予熱時間は，下表を参考に行ってください。
エンジンが暖まっている場合，予熱は不要です。

気温	予熱時間
０℃以上	２～３秒
０～－５℃	５秒
－５～-15℃	10 秒

1AGAAAPAP091C

補　足

＊ 予熱及び始動中のみ，グローランプが点灯します。

1AGAAAPAP042D

9. キーを［始動］位置に回します。

1AGAAAPAP091D

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10 秒以上の連続使用は避けてください。
10 秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30 秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

補　足

＊ 主変速レバー及び PTO 変速レバーを **［中立］（N）**にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

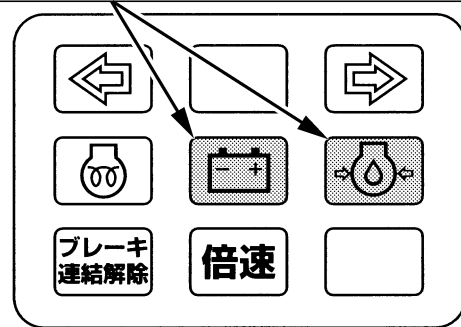
10. エンジンが始動したら，キーから手をはなします。

自動的に **［入］** にもどります。

重　要

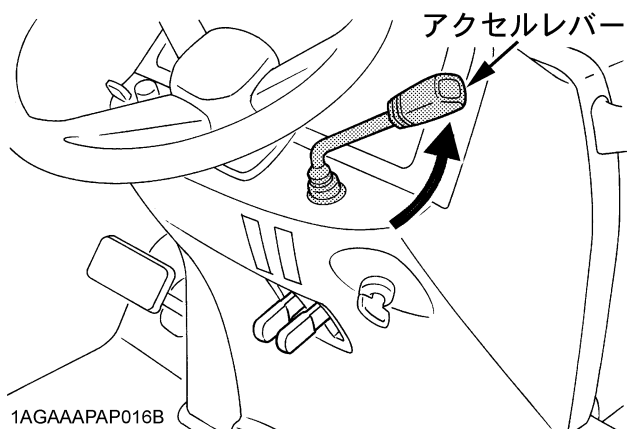
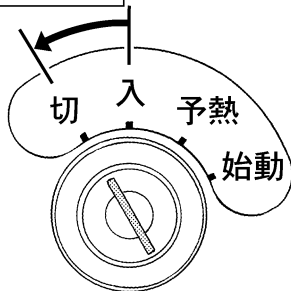
＊ エンジン回転中は，キーを **［始動］** 位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

11. イージーチェッカランプの［消灯］を確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

1AGAAAPAP042C

12. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま 5 分程度暖機運転します。

停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい前へ［押し］てアイドリング状態にします。

2. キースイッチのキーを［切］の位置にして，エンジンを停止します。

1AGAAAPAP091B

重　要

［GB115・135・145］

＊ 万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい引張ると停止します。

補　足

＊ エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

3. キーを［抜き］ます。

重　要

＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーは抜いてください。

寒冷時の暖機運転

**＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

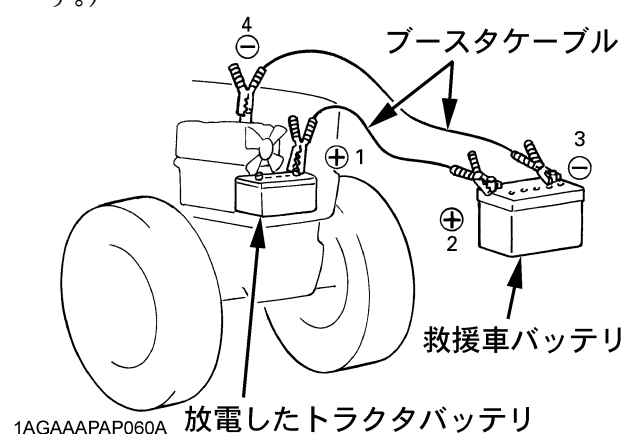
始動後，約５分間は負荷をかけずに暖気運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

［S 仕様］
パワーステアリングを油圧で作動させており，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖気運転を行ない，トランスミッションを暖めてください。暖気運転は行なわないと，満足な機能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	約５分間
0℃以下	10 分間以上

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します。
＊ マイナスケーブルの他端**［4］**の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端**［4］**を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。）

2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

トラクタの運転

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。また，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

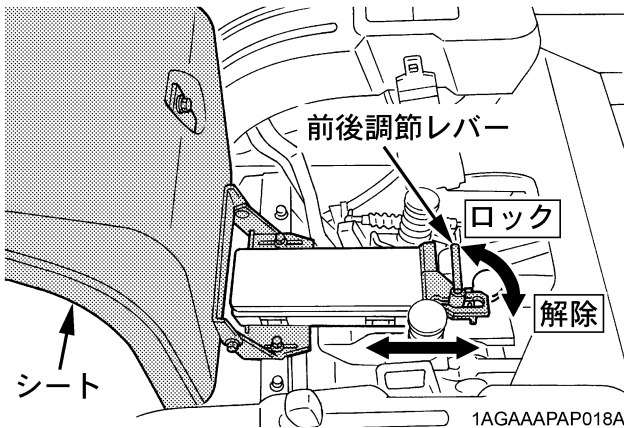
ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後，**［定期点検箇所一覧表］**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シート

1. 前後調節レバーでロックを［**解除**］すると，前後３段階に調節できます。
   調節後はレバーで確実に［**ロック**］してください。
2. 雨のときは，シートを前に倒しておくと座席がぬれません。

■安全フレームとシートベルトについて

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊ トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。

＊ 納屋の出入りなど，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。

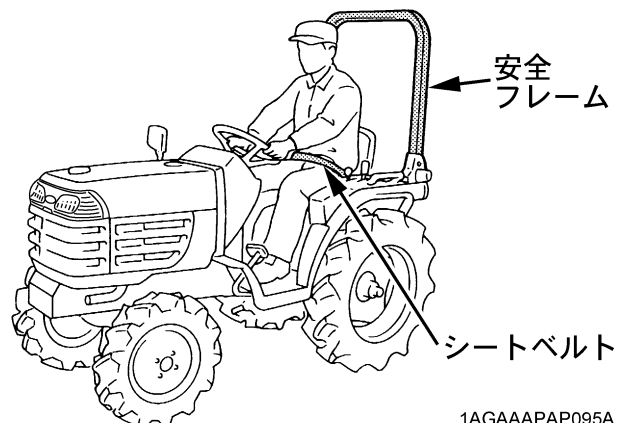
＊ 安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。

＊ 安全フレームの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

＊ 安全フレームを立てたときは，左右のレバーを押し込んで確実に固定してください。また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。

＊ 安全フレームが確実に固定されているか確認してください。

＊ 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。
また折りたたんだり，立てたてたりするときは，トラクタの後方の安定した足場に立ち，両手でゆっくりと注意しながら行なってください。

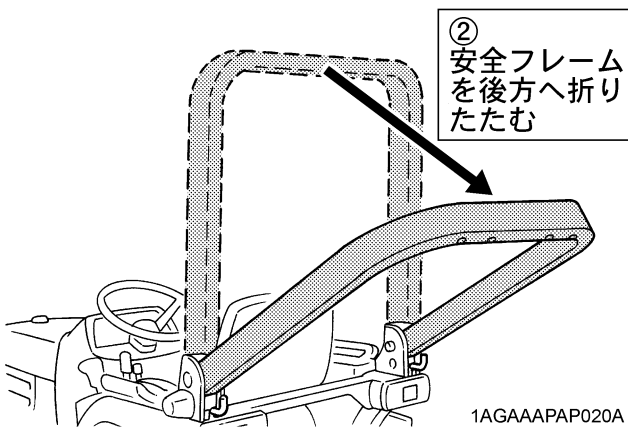
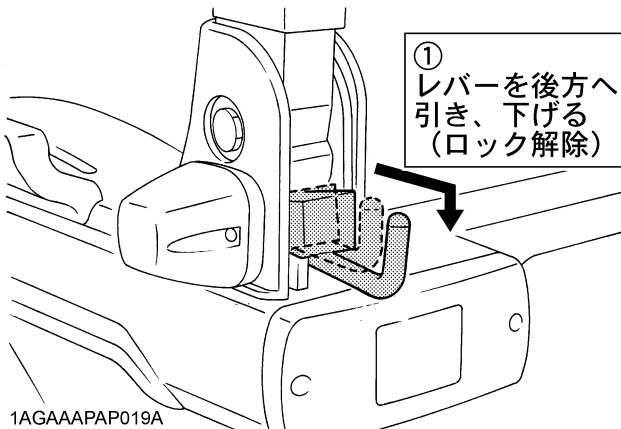
＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

◆ **折りたたみ方法**

1. レバーを後方へ引き，そのまま少し下側に下げロックを解除します。(左右共)
2. 次に，安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたんでください。

補　足

＊ 安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

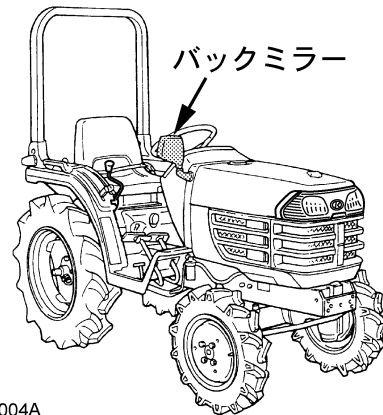
1AGAAAPAP019A

1AGAAAPAP020A

◆ **起こす方法**

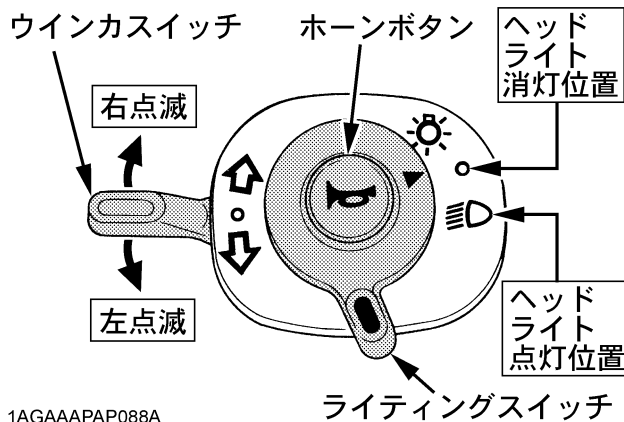
1. 安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。
2. ロックレバーで安全フレームが確実にロックされているか (左右共)，また安全フレームにガタがないか確認してください。

■バックミラー

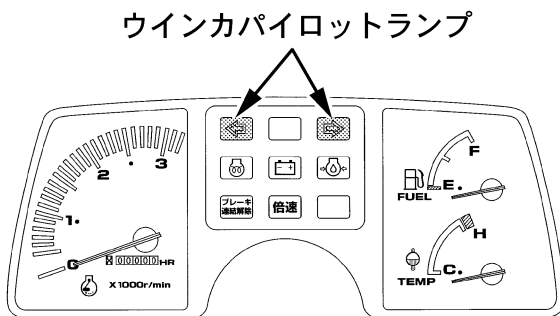
後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

1AGAAAPAP004A

灯火類の操作

■コンビネーションスイッチ

1AGAAAPAP088A

◆ **ウインカスイッチ**

1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

1AGAAAPAP042E

◆ **ホーンボタン**

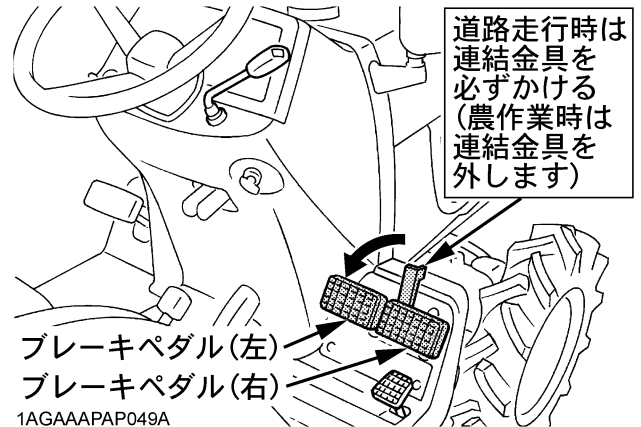
ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

発進・走行

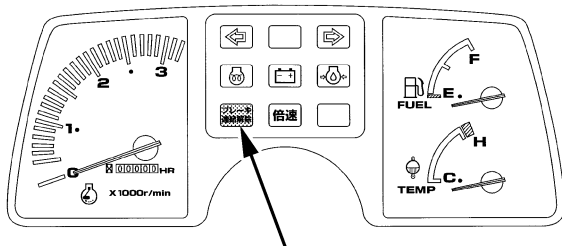
1. ブレーキペダルの確認

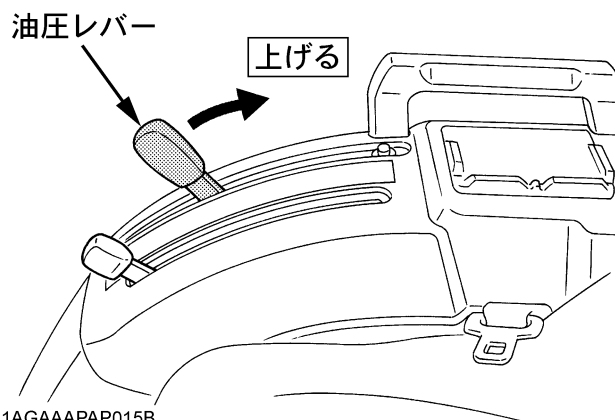
■ブレーキペダル

＊ **道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。**
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態………道路走行時。
連結金具を外した状態………農作業時。

1AGAAAPAP049A

◆ブレーキ連結解除ランプ

ブレーキペダル連結金具を外すとブレーキ連結解除ランプが点灯します。
道路走行時などでは連結金具をかけ，ブレーキ連結解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。

1AGAAAPAP042F

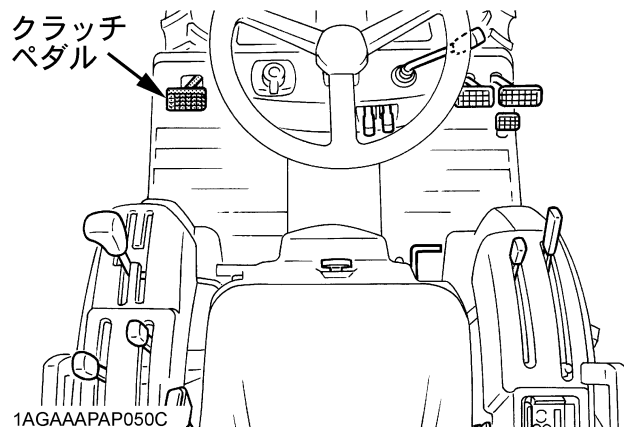
2. 油圧レバーを［後方に引き］作業機を上げます。
（詳細は**［作業機昇降装置］**の項を参照）

1AGAAAPAP015B

3. クラッチペダルを踏込みます。

注 意

**＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。**

■クラッチペダル

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む…………クラッチが切れる。
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

1AGAAAPAP050C

補 足

＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。
- 主変速レバー
- 副変速レバー
- PTO 変速レバー

4. 作業に応じ倍速ターンレバーを操作します。

■倍速ターンレバー

［B 仕様］

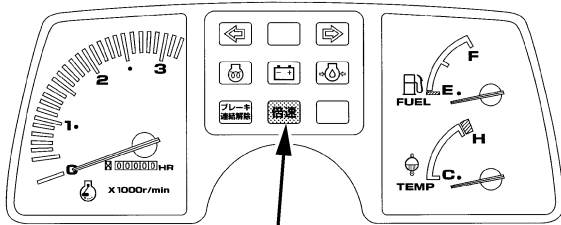
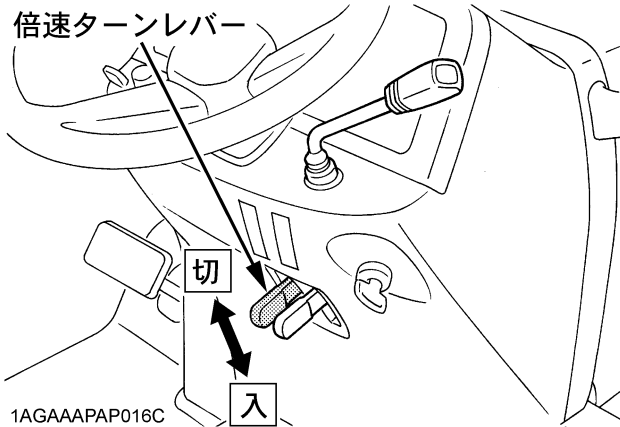
警 告

＊ 倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に必ず倍速ターンを［切］にしてください。
＊ 倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

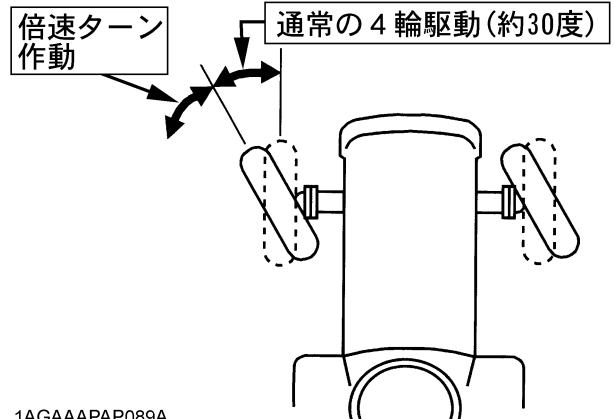
◆ 操作手順

1. トラクタを停止させ，前輪タイヤを直進状態にする。
2. レバーを［入］にすると倍速ターンが入ります。
（キースイッチが［入］のときは倍速ターンランプが点灯します）
3. レバーを［切］にすると倍速ターンが切れ，４輪駆動になります。

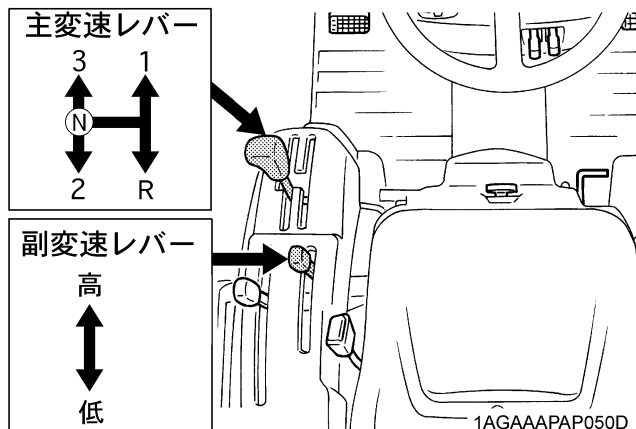
1AGAAAPAP016C

1AGAAAPAP042J

◆ 倍速ターンの使い方

倍速ターンの作動は次のようになっています。
旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態から約 30 度になるまでは，通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。
更にステアリングハンドルを切り約 30 度以上になると，倍速ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。

1AGAAAPAP089A

重　要

＊ ローダ，トレーラなど前輪に重荷重がかかる作業や速度の速い作業には，使用しないでください。
＊ 倍速ターンレバー［入］・［切］は，前輪タイヤが直進の状態で行なってください。
＊ 倍速ターンの高速けん制
倍速ターンレバー［入］の状態で副変速レバーを［高］にすると，倍速ターンは自動的に［切］となり（倍速ターンレバーは動きません。また，キースイッチ［入］のときは倍速ターンランプは点灯したままです），副変速レバーを［低］に戻すと倍速ターンは［入］に復帰します。この使用法はほ場内だけにし，道路走行では倍速ターンレバーを［切］にしてください。

5.　走行速度を選択します。

２本のレバー操作を組合せることにより，前進６段・後進２段の車速が得られます。

重　要

＊ 操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

■主変速レバー

レバー１本で前進３段，後進１段の車速が選択できます。

■副変速レバー

［低］位置で低速，**［高］**位置で高速が得られます。

副変速**［低］**…　主に農作業，けん引作業時に使用します。

副変速**［高］**…　主に道路走行に使用します。

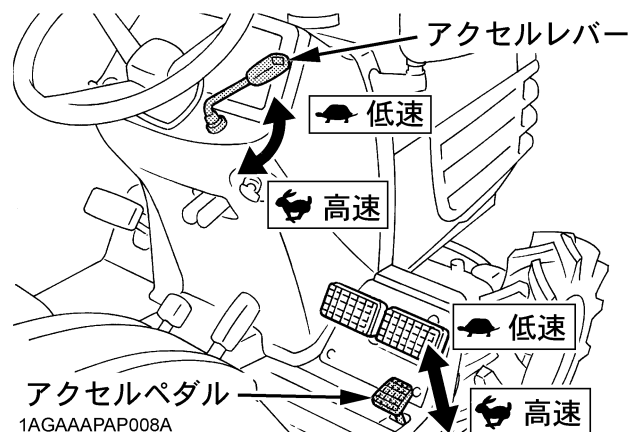
6.　エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー

主に農作業時に使用します。

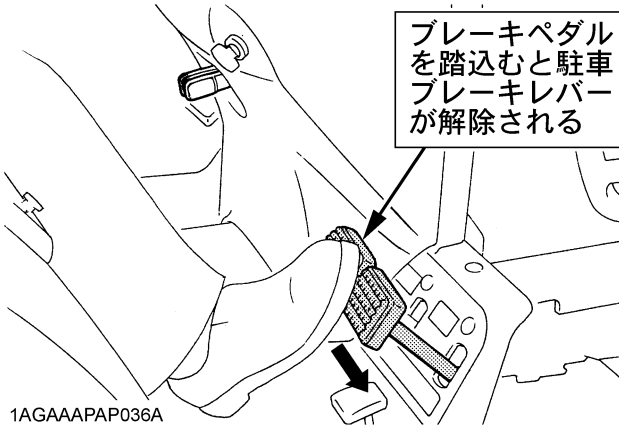
（うさぎ）………　レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

（かめ）………　レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆ アクセルペダル

主に道路走行時に使用します。

ペダルを踏込む	エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す	アクセルレバーで設定しているエンジン回転まで下がる。

7.　駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

8.　クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

重　要

＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。

1. 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
2. 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
3. クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

停車・駐車

注　意

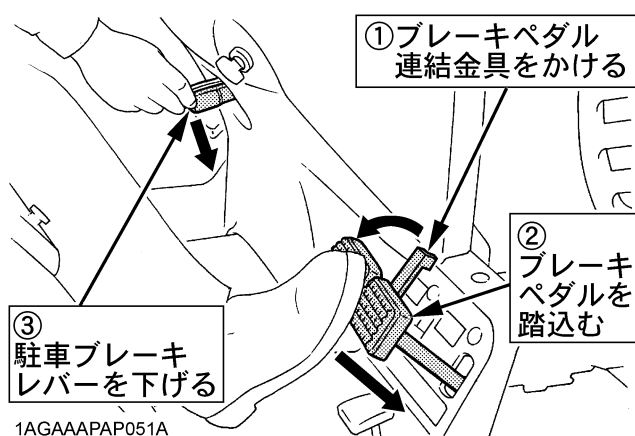
＊ 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，各変速レバーを［中立］（N），作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［掛け］，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
火災の原因になります。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。

2. クラッチ及びブレーキペダルを［踏込み］ます。

3. 安全に停止してから，主変速及び PTO 変速レバーを［中立］（N）にします。

4. 作業機を取付けている場合は，油圧レバー（ポジションコントロール）をゆっくり［前方に倒し］作業機を下げます。

5. 駐車ブレーキを確実に［ロック］してください。

6. キースイッチを［切］にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

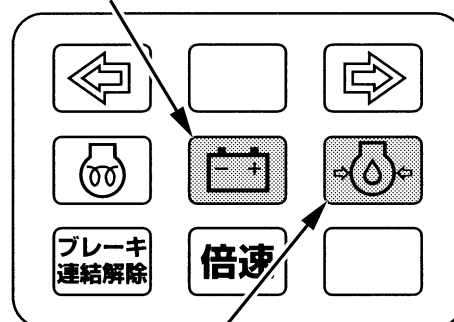
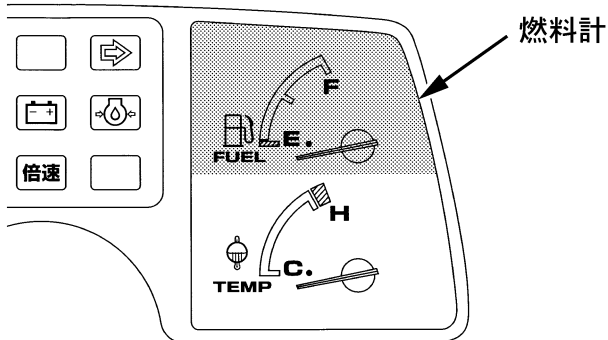
1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

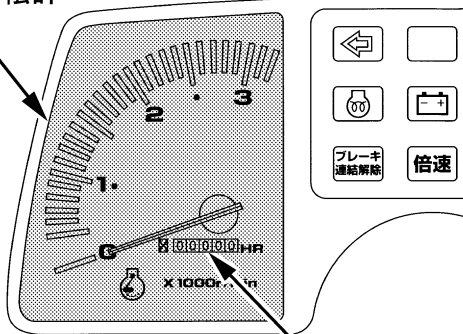
運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。

バッテリチャージランプ
（バッテリ充電警告灯）
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**［入］**にすると点灯し，始動すると消灯します。
点灯したままのときは，点検してください。

エンジンオイルランプ
（エンジン油圧警告灯）
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。
キースイッチを**［入］**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，点検してください。

■燃料計
指針が［E］に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）

1AGAAAPAP042G

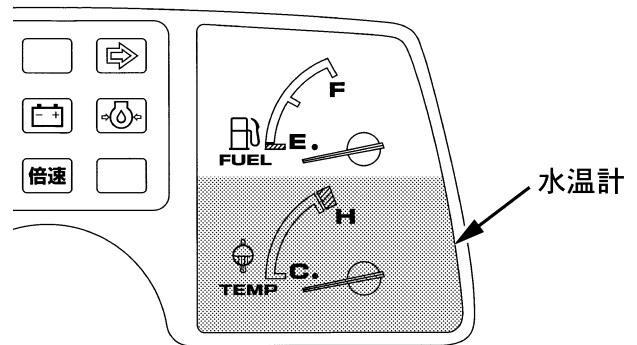
■トラクタメータ

1AGAAAPAP042I

◆ **積算時間計**
積算時間計は5桁になっており，初めの4桁は時間，最後の1桁は1 /10 時間（6倍すると**［分］**単位）を示します。

◆ **エンジン回転計**
1分間のエンジン回転速度を示します。

■水温計

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が［H］（レッドゾーン）を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。

1AGAAAPAP042H

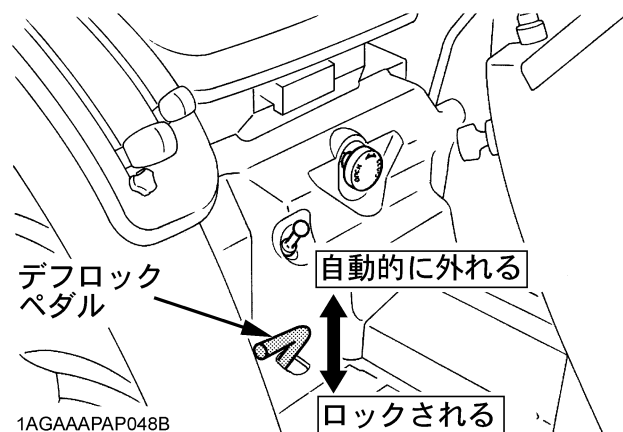
◆ **オーバヒートしたときの処置**
オーバヒート（水温計の針が［H］にあるとき）したときは，
1. 作業を中止し，
2. エンジンを約5分間アイドリング回転してから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   (1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   (2) 防虫網及びラジエータフィンに，泥やゴミが付着していないか。
   (3) ファンベルトのゆるみがないか。

重 要

＊ リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記**［オーバヒートしたときの処置］**を行なってください。

デフロックの使い方

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。
ペダルを踏込む………ロックされる。
ペダルから足を離す…自動的に外れる。

◆デフロックの使い方

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。
1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重 要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ 抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

旋回のしかた

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

坂道での運転

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では主変速を［中立］にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

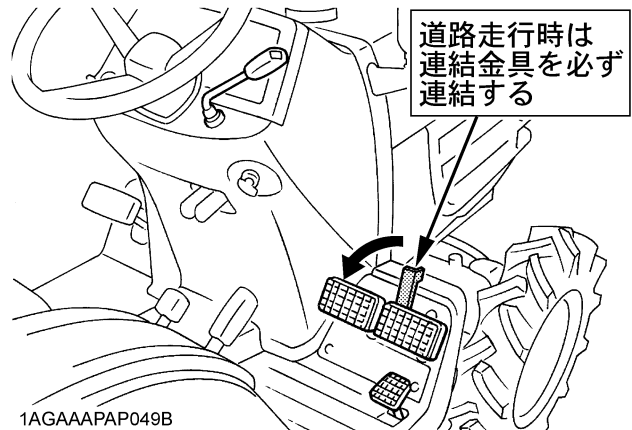
＊ 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
あゆみ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

注意

＊ 倍速ターンレバーは［切］にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
   常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

道路走行中の注意

＊ 道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
【道路運送車両法の保安基準】
（作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。）
＊ 道路走行時には水平切換スイッチを必ず［手動］にして走行してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両の保安基準］**第42条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

トラックへの積み・降ろし

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**［連結］**しバックで行なってください。

万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い

［S 仕様］

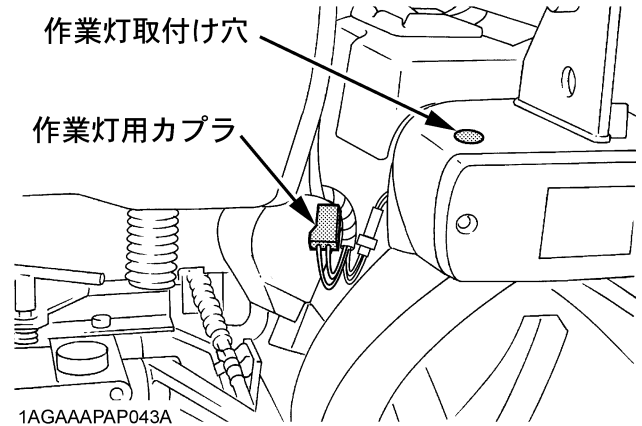
＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重 要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

外部電源取出端子

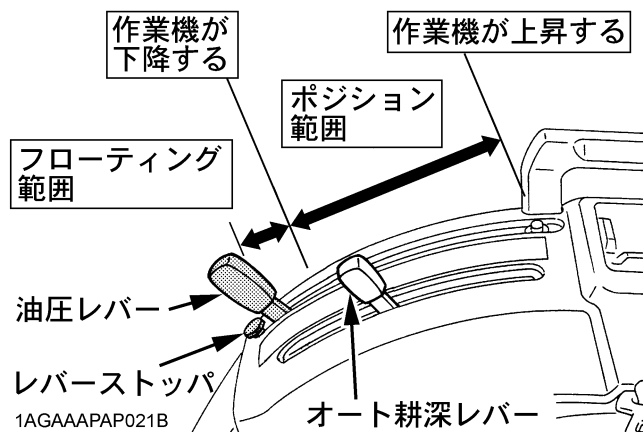
■電源カプラ

作業灯を使用するときは，シート後部にカプラがあります。

油圧・三点リンク・PTO

作業機昇降装置

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧（ポジションコントロール）レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置です。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。

補　足

＊ オート耕深レバーの取扱いは，**［モンローマチック・メカオートの取扱い］**の章を参照。

■レバーストッパの使い方

1. 油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は，油圧レバーをレバーストッパに当たるまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

重　要

＊ レバーガイド上昇側の端部にある固定ストッパは動かさないでください。動かすと油圧レバーによる正常な昇降ができなくなります。

■メカポンパレバー

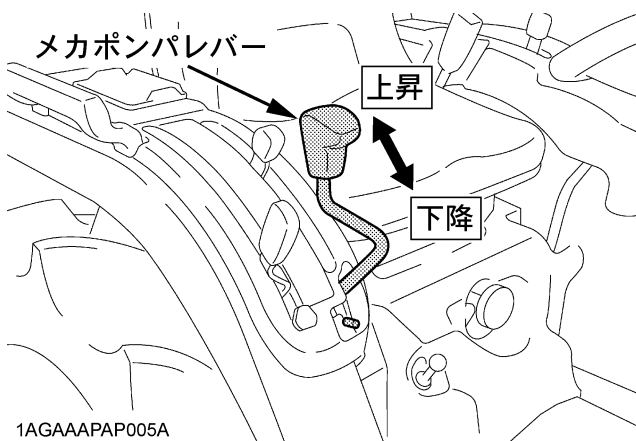
［GB155A・175A 仕様］

＊ ロータリ，またはハローでの，ほ場内作業以外ではメカポンパを使用しないでください。
それ以外（移動など）は，油圧レバーを使用してください。

メカポンパレバー操作で作業機を上下させることができ，ほ場内での旋回操作が便利になります。

レバーを後方に引く……　作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……　作業機が油圧レバーセット位置まで下降する。

補　足

＊ メカポンパレバーが上昇側にある場合，油圧レバーを下降側に操作しても，作業機は下降しません。

■ロックレバー

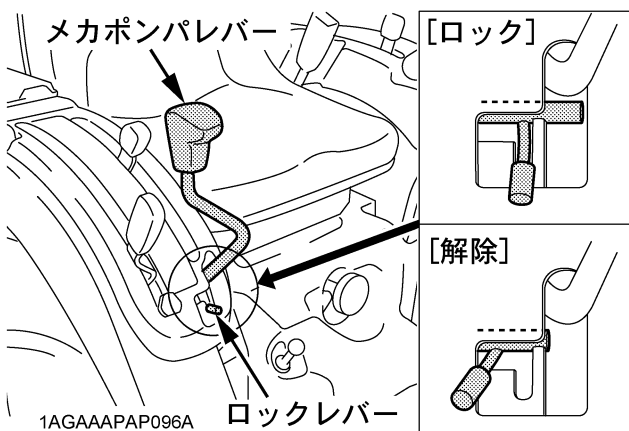
⚠ 注　意
＊ **トラクタから降りる際には，ロックレバーでメカポンパレバーをロックしてください。**

ロックレバー操作で，メカポンパレバーをロックすることができます。

ポンパレバーが **［上昇］** 位置でロックレバーを **［ロック］** する。	作業機の **［下降操作］** ができなくなる。

ポンパレバーが **［下降］** 位置でロックレバーを **［ロック］** する。	作業機の **［上昇操作］** ができなくなる。

補　足

＊ メカポンパレバーを使用するときには，ロックレバーを解除してください。

補　足

＊ 上記イラストはポンパレバー **［上昇］** 位置での **［ロック・解除］** を示しています。

■作業機落下速度の調整

⚠ 注　意
＊ **ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。** ＊ **落下速度調整グリップでロックした後，油圧レバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。** ＊ **ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。**

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

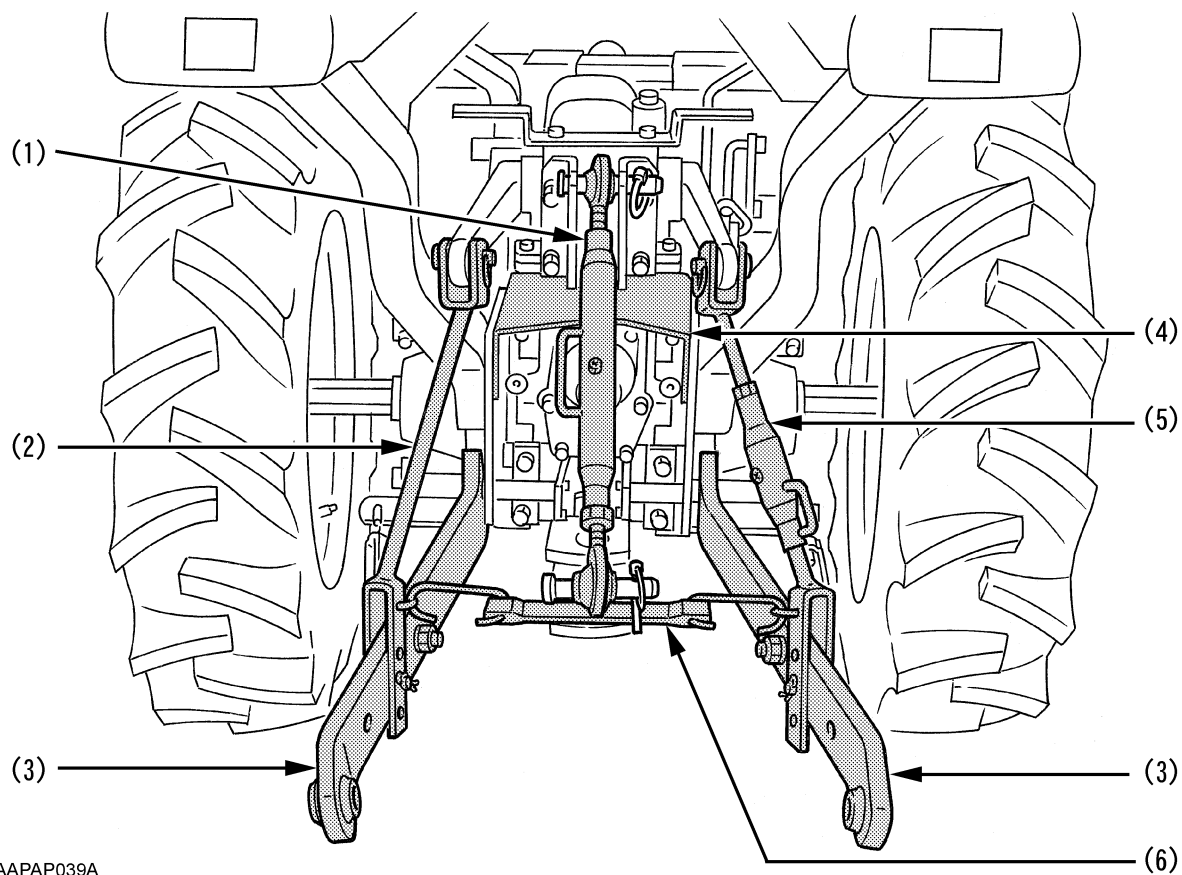
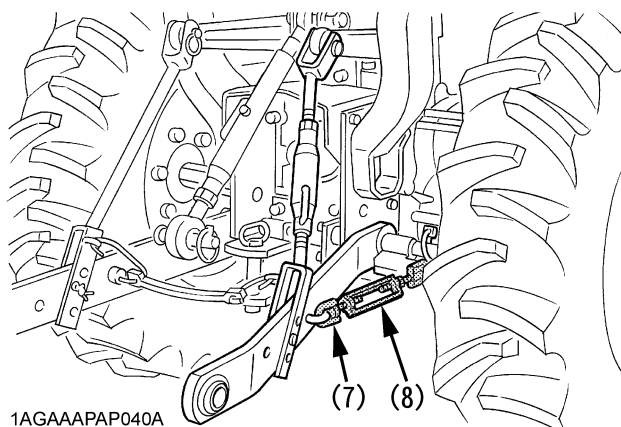
［速い］ 方向に回す：
　油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。
［遅い］ 方向に回す：
　油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。（**［停止］** 方向に軽く締込むと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。
特に耕うん開始時の落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

＊ グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

三点リンク

(1)
(4)
(5)
(2)
(3)
(3)
(6)
1AGAAAPAP039A

1AGAAAPAP040A

(1) トップリンク
(2) リフトロッド左
(3) ロアーリンク
(4) PTO 軸カバー
(5) リフトロッド右
(6) 振止めゴム
(7) チェックチェーン
(8) ターンバックル

補 足

＊ 図は，標準三点リンク（ロータリなし）（P）仕様です。

注 意

＊ 3点リンク装置を使用する場合は，必ず PTO 軸カバーを取付けて使用してください。
＊ PTO 軸カバーの上に乗らないでください。

1. 三点リンクは，JISO 形です。
2. ロータリ用二点リンク仕様から，標準三点リンク仕様に変更される場合は，三点リンクヒッチアッシ（品番 96316-1420-0）が必要です。

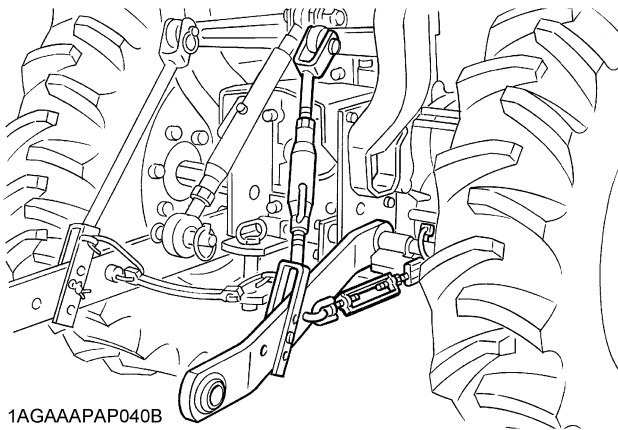
補 足

＊ 標準三点リンク取付状態ではモンローマチックは使用できません。
＊ 別売で標準三点リンクを購入される場合は購入先でよくご相談ください。

1. インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

一般作業機を使うときは，作業機の説明書に従ってください。

1AGAAAPAP040B

2. 作業機の着脱

警 告

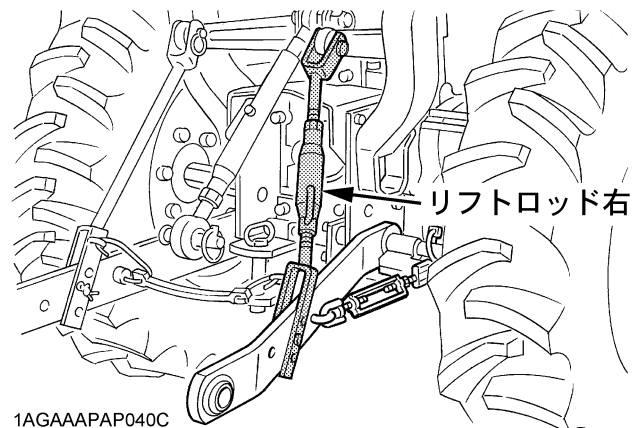
＊ 作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊ 駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊ 作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
＊ 作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

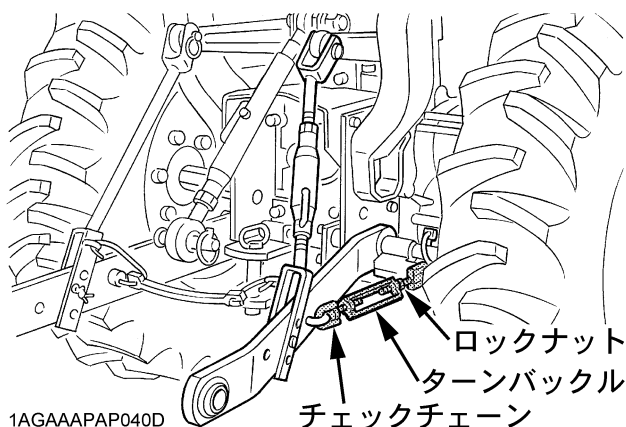
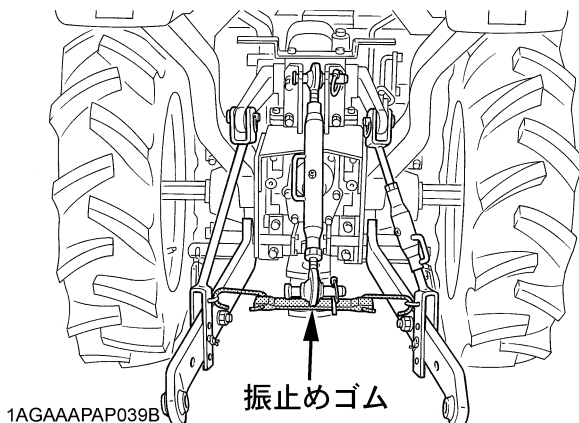
■トップリンクの調整

1. 伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
2. トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

■リフトロッド（右）の調整

リフトロッド右を操作して，作業機の傾きを調整してください。

1AGAAAPAP040C

■チェックチェーン
ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はロックナットでターンバックルを固定してください。

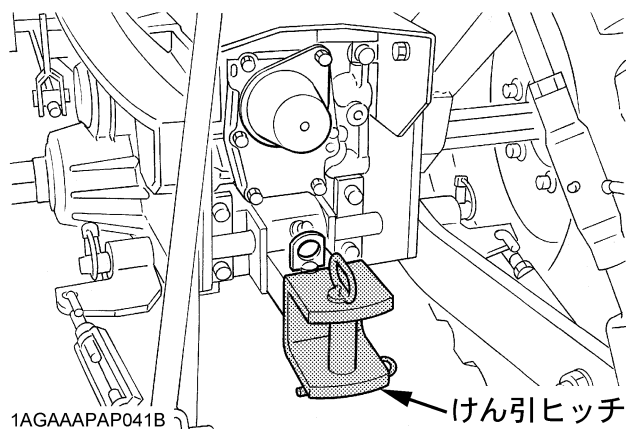
作業機	チェーンの張り具合
ロータリ	ロータリが横方向に１～２cm動く程度
プラウ， ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に５～６cm動く程度(ロアーリンク，リフトロッドなどがタイヤと接触しないことを確認してください。)
モアー， ヘイレーキ， テッダ， リッジャ， カルチベータ	軽く締める

■作業機を取付けないときの注意
作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。

けん引ヒッチ

（標準３点リンク（Ｐ）仕様以外は別売）

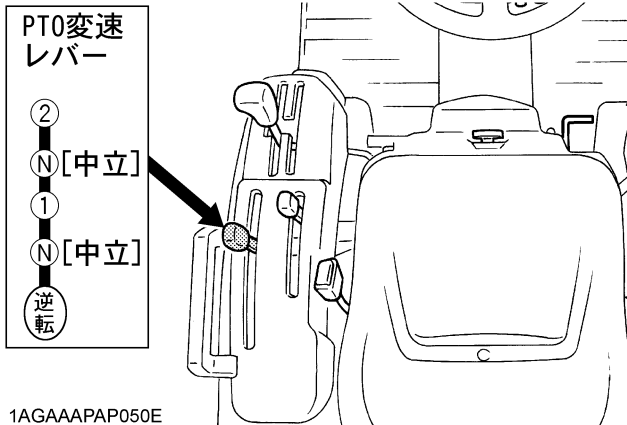
＊ けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（別売）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。

＊ 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を起こすおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

PTO

■ PTO 変速レバー

＊ **作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。**

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度を，正転２段階，逆転１段階に変速できます。
変速操作時は，必ず主クラッチを切ってから行なってください。

◆ PTO［逆転］の使い方

1. 使用できる作業機
＊ メーカ指定のロータリに限ります。

重　要

＊ メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業
＊ 軟弱地での土寄せ作業
＊ 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

補　足

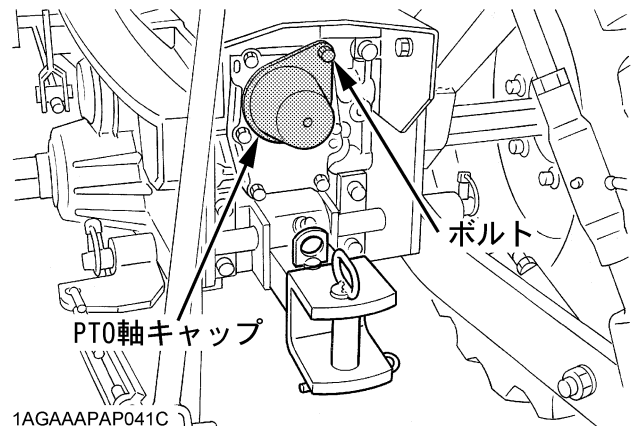
＊ 土寄せ作業は，エンジン回転数 1500rpm 位で作業すると，泥飛びも少なく効果があります。

3. 使用できない作業
＊ 逆転耕うん作業
＊ 未耕地や石の多いほ場での土寄せ作業
＊ ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■ PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ

＊ **PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。**
＊ **PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。**
＊ **PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。**
＊ **PTO 軸カバーの上に乗らないでください。**

◆ PTO 軸キャップの取付け方

1. リヤ PTO カバーを固定しているボルトを 1 箇所ゆるめます。
2. PTO軸キャップを差込み，再びボルトを締込み固定します。

モンローマチック［M 仕様］メカオート［A 仕様］の取扱い

モンローマチックは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

スイッチの名称

重　要

＊ スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

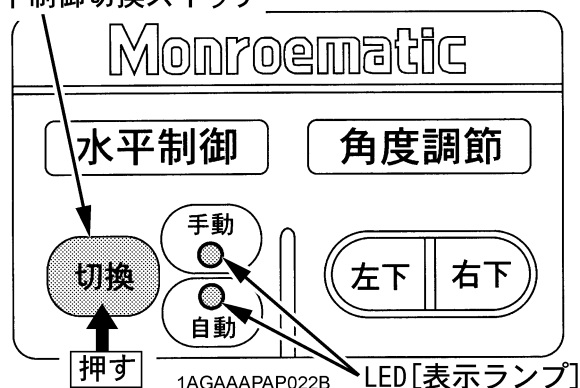
モンローマチックの使い方

［M 仕様］

■水平制御切換スイッチ

＊ 走行時は必ず［手動］にして走行してください。また，落下速度調整グリップを回して油圧をロックし作業機の落下を防止してください。

スイッチを押す毎に水平制御が **［自動と手動］** の交互に切替わり，その状態をLED（ランプ）で表示します。
自動・手動は作業に応じ選択してください。

1AGAAAPAP022B

1. 自動
トラクタの角度にかかわらず作業機を常に水平に保ちたいとき使用します。
適応作業：水田の耕うん・代かき作業，
水平な畑の耕うん作業等

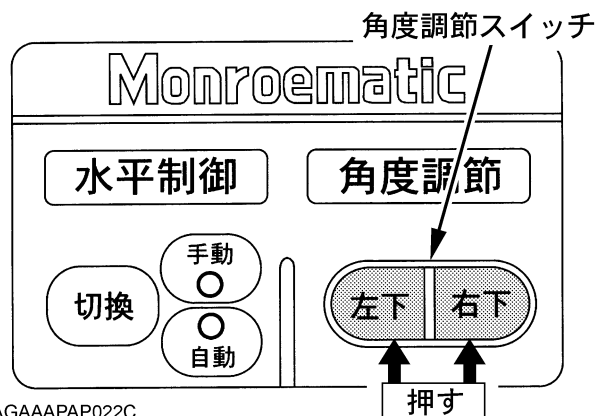
2. 手動
作業機を常にトラクタと平行又は傾けた状態を保ちたいとき使用します。
適応作業：プラウ作業・フロントローダ
作業・走行時等

補　足

＊ **［自動］** の位置では作業機を持ち上げると，作業機がトラクタと平行になります。
＊ モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業等）には，**［手動］** で作業してください。
＊ ロータリを取外すときは **［手動］** にしてから取外してください。又，ロータリを取外しているときは **［手動］** 位置に保持しておいてください。
＊ センサなど電子部品にはスチームクリーナなどでの直接洗浄は避けてください。

■角度調節スイッチ

作業機の姿勢を調節するときに使用します。
水平切換の位置により各スイッチの働きが変わります。

1AGAAAPAP022C

1. 水平制御切換スイッチが **［自動］** のとき

［左下］［右下］：作業機を水平に対して傾けて使用したいときに使用します。作業機はスイッチを押している間，押している側へ傾きを増し，スイッチから手を離すと水平の位置に戻ります。

2. 水平制御切換スイッチが **［手動］** のとき

［左下］［右下］：作業機をトラクタに対して傾けて使用したいときに使用します。作業機はスイッチから手を離した任意の角度に保持されます。

■故障・異常の表示

水平制御の部品に異常が発生した場合は，水平制御切換スイッチ部のLED（ランプ）が点滅します。この場合，安全のため機能の一部が働らかなくなります。

■緊急時の対応方法

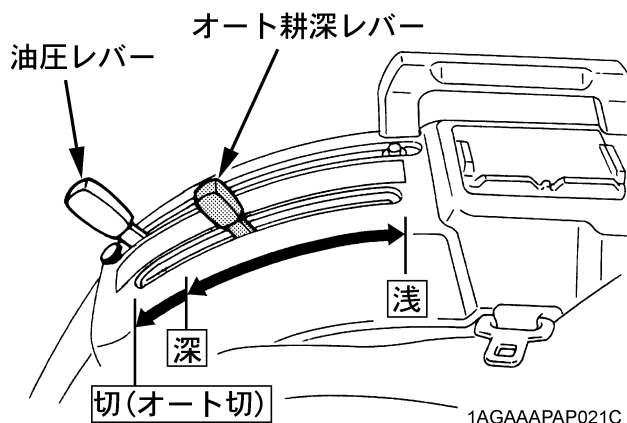
1. 作業機の傾け方
水平制御切換を **［手動］** にし **［左下・右下］** スイッチで作業機を傾けます。

メカオートの使い方

［A 仕様］
後２輪を外したオート耕うん作業で，より一層の小まわり作業ができ，後２輪跡のないきれいな仕上りが得られます。
なお，オート耕うんの仕上りは装着している作業機の調整によっても大きく変わります。トラクタと作業機の正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

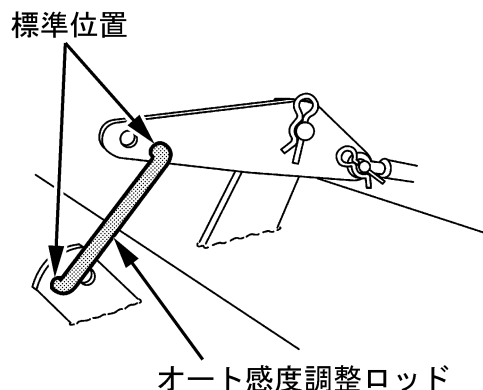
■オート耕深レバー

このレバーでオート耕うんの **［切］** 及び **［入］**（耕うん深さの自動設定）が行なえます。

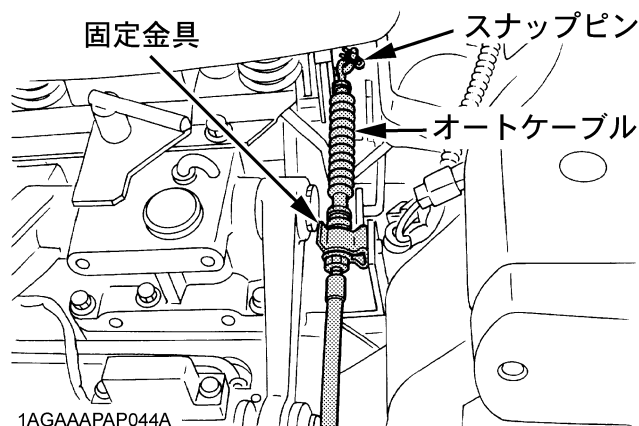
1. オート耕深レバーを **［浅］** 方向にすると，ロータリの耕深が浅く保持されます。
2. オート耕深レバーを **［深］** 方向にすると，ロータリの耕深が深く保持されます。
3. オート耕深レバーを **［切］** 方向にすると，オートが切となります。
4. ロータリの上げ下げは，外側の油圧レバーで行ない，作業中油圧レバーは一番下にしておいてください。

補　足

＊ 目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でも，ほ場条件が変わると深さの設定が変わります。
＊ 畝立て作業や片倍土作業などロータリカバーを持上げて作業を行なうとき，あるいは後２輪を取付けてロータリ作業を行なうときはオート耕うんが作動しない状態（オート耕深レバーを **［切］** 位置）にしてください。
もし，**［オート切］** 位置にせず，ロータリカバーを持上げたままオート耕深レバーを **［浅］** 方向にすると，リリーフが作動し油圧系統の故障原因となります。

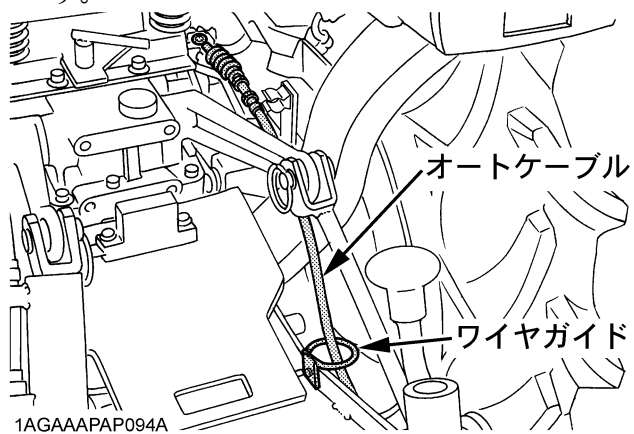
■オート感度調整ロッド

オート感度は出荷状態で下図の標準位置にセットされています。オートの感度を変えたい場合は他の穴の組合わせも可能ですが，購入先にご相談ください。

■ロータリ着脱時の注意

ロータリの着脱時には，（３点リンク，ジョイントと共に）オートケーブルの着脱が必要です。

1. オート耕深レバーを下げ **［切］** 位置にします。
2. オートケーブルを，固定金具から外します。
3. スナップピンを外し，オートケーブルの先端をピンから外します。

補　足

＊ 外したスナップピン・ケーブルは，紛失したり傷めたりしないよう大切に保管してください。

4. オートケーブルをワイヤガイドから抜きます。

タイヤ・ウエイト

タイヤ

警　告

* **タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。**
* **タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
* **タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）**

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。

1AGAAAPAP007A

◆ **標準空気圧**

	タイヤ	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前輪	4.00-8（ターフ）	350(3.5)
	4.00-10	120(1.2)
	4.00-12	
	5-12	
	5.00-12	
後輪	24 × 8.50-12（ターフ）	160(1.6)
	7-14	100(1.0)
	7-16	180(1.8)
	8-16	160(1.6)
	8-18	
	130/90-21	400(4.0)

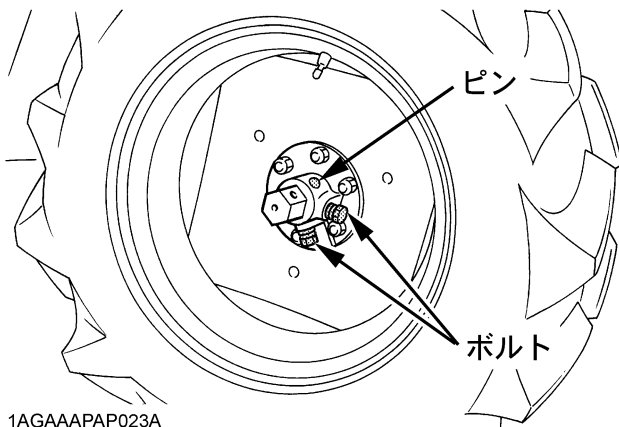
輪距の調整

＊ **けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。**
＊ **道路走行時は後輪トレッドを 77cm（内側から２番目の穴位置）にしてください。**

■前輪

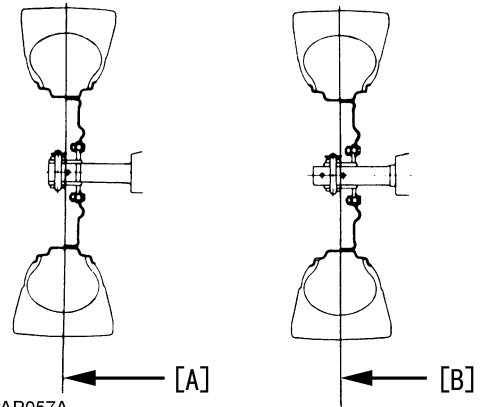
前輪の輪距は変更できません。

■後輪

後輪は，六角ホイールチューブと六角ハブによって，ピン１本とセットボルトで止められており，ピン穴の位置を変えることによって調節できます。

重　要

＊ 輪距調整後はボルトを確実に締め付けてください。

後輪の輪距は４段階に調節できます。(GB115D9 は５段階)

24 × 8.50-12（ターフ）タイヤは最大輪距のみです。

［A］ 87cm（最大）
　　 77cm（最大）［GB115DA5，GB135DA5 仕様］
　　 80cm（最大）［GB115HP 仕様］

［B］ 72cm（最小）
　　 65cm（最小）［GB115HP 仕様］
　　 67cm（最小）［GB115D9 仕様］

重　要

＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。

ウエイト

注　意

＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
（詳細は購入先にご相談ください。）

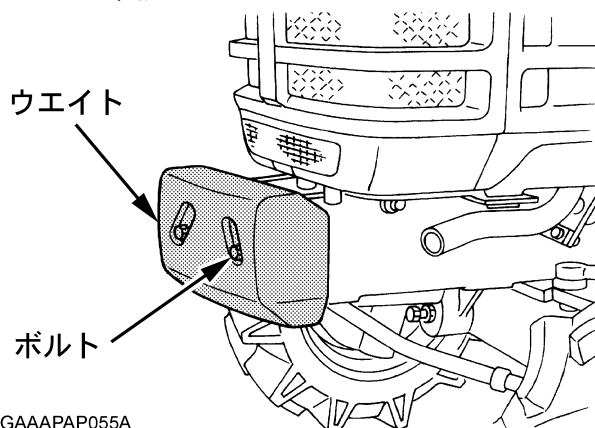
■ウエイト（オプション）

ウエイトは下記の２種類があります。
ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

◆ バンパーウエイト（15kg）

(ロータリによっては標準出荷状態で取付けてあります)
トラクタのフロントバンパーにウエイトを付属のボルトで固定します。

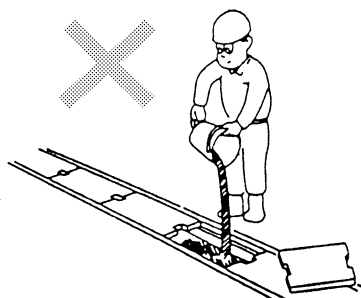
◆ 前部ウエイトの取付け方法

バンパーウエイトが取付けてある場合は，バンパーウエイトを外してください。
トラクタのフロントフレームにウエイトをひっかけ, 付属のボルト, ロックナットで固定します。
ウエイト１枚の重量は 14kg で１～３枚取付けできます。

トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

＊　給油及び点検整備するときは
1.　トラクタを平たんな広い場所に置き
2.　作業機を降ろし
3.　駐車ブレーキをかけ
4.　エンジンを止め
5.　キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと障害事故を引起すおそれがあります。

廃油処理について

＊　抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し，処理してください。
＊　廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。

1AGAAAPAP035A

洗車時の注意

重　要

＊　高圧洗車機等による洗車の際には，メータパネル，ホーンボタン回り，バッテリ，エンジン回りの電気配線・電装品（および電子油圧操作部）には，圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の 50 時間後に必ず行なってください。

＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

No.	時期			アワーメータ表示時間														それ以後	参照ページ
	項目			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	エンジンオイル	年間使用時間が 100 時間以上の場合	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	54
		年間使用時間が 100 時間以内の場合	交換															1 年ごと	54
2	エンジンオイルフィルタ		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	59
3	ミッションオイル		交換	◎					○						○			300 時間ごと	61
4	油圧オイルフィルタ		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	60
5	前車軸ケースオイル		交換						○						○			300 時間ごと	62
6	グリースの注入		－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	50
7	エンジン始動システム		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	51
8	倍速ターン高速けん制装置		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	52
9	タイヤ取付けボルト		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	52
10	クラッチハウジング		水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	53
11	燃料ホース		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	53
			交換															2 年ごと	65
12	バッテリ電解液		点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	55
13	エアクリーナエレメント		清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	56
			交換															1 年又は 6 回清掃ごと	63
14	ファンベルト		調節		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	57
15	クラッチペダル		調節	◎	○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	58
16	ブレーキペダル		調節		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	58
17	トーイン・タイロッド		点検				○				○				○			200 時間ごと	60
18	ラジエータホース		点検				○				○				○			200 時間ごと	59
			交換															2 年ごと	65

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以後	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
19	燃料フィルタ	交換								○							400 時間ごと	62
20	ステアリングギヤーボックス	点検								○							400 時間ごと	62
21	前部デフケース前後遊び	調節												○			600 時間ごと	63
22	エンジンバルブクリアランス	調節															800 時間ごと	63
23	ラジエータ（クーリングシステム）	洗浄															2 年ごと	65
24	冷却水	交換															2 年ごと	63
25	モンローシリンダホース	交換															2 年ごと	65
26	燃料系統の空気抜き	－															必要に応じて	65
27	ヒューズ類	交換															必要に応じて	65
28	ランプ類	交換															必要に応じて	66

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

<table>
<tr><th rowspan="2">給油（水）項目</th><th colspan="4">容量（L）</th><th rowspan="2">使用オイル</th></tr>
<tr><th>GB115</th><th>GB135</th><th>GB145</th><th>GB155
GB175</th></tr>
<tr><td>燃　料</td><td colspan="4">13</td><td>ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td>冷却水（ラジエータ）</td><td colspan="4">2.9</td><td rowspan="2">清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）</td></tr>
<tr><td>冷却水（リザーブタンク）</td><td colspan="4">0.7</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンオイル</td><td>1.6</td><td colspan="2">2.4</td><td>2.7</td><td rowspan="2">クボタ純オイル
（ディーゼルエンジン用）
D30 又は D10W30，CC 級又は CD 級</td></tr>
<tr><td colspan="4">（オイルゲージ上限全量，
フィルタ部も含む。）</td></tr>
<tr><td>ミッションオイル</td><td colspan="4">11.5</td><td rowspan="3">クボタ純オイル
スーパー UDT 又はバイオスーパー UDT</td></tr>
<tr><td>ステアリングギヤーボックスオイル
［マニュアルステアリング仕様］</td><td colspan="4">0.2</td></tr>
<tr><td>前車軸ケース</td><td colspan="4">3.0（［B 仕様］：3.7）</td></tr>
<tr><td>グリースの注入
・クラッチペダル
・ブレーキペダル
・ブレーキペダル軸
・２点リンク回動部［M 仕様］</td><td colspan="4">少量</td><td rowspan="2">極圧（万能）グリース</td></tr>
<tr><td>グリースの塗布
・関接球</td><td colspan="4">塗布</td></tr>
</table>

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル 前車軸ケースオイル ステアリングギヤーボックスオイル
新日本石油	クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） D30 又は D10W-30	クボタ純オイル スーパー UDT 又はバイオスーパー UDT
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

★バイオスーパー UDT 油は万一事故でオイルが土壌，河川，沼地，海等に流出した場合，微生物などにより成分のほとんどが分解され環境汚染を防ぐことができる潤滑油です。

■グリース

メーカ	商　品　名	用　　途
新日本石油	エピノックグリース AP2	極圧（万能）グリース
コスモ石油	ダイナマックス EP2	
ジャパンエナジー	JOMO リゾニックス EP2	
昭和シェル石油	アルバニヤ EP グリース 2	
富士興産	フッコール EP2	
出光興産	ダフニーエポネックス SR2	
モービル	モービラックス EP2	
エッソ／ゼネラル	ビーコン EP2	
協同油脂	マルテンプ PS2	ホーン接点用グリース

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

注　意

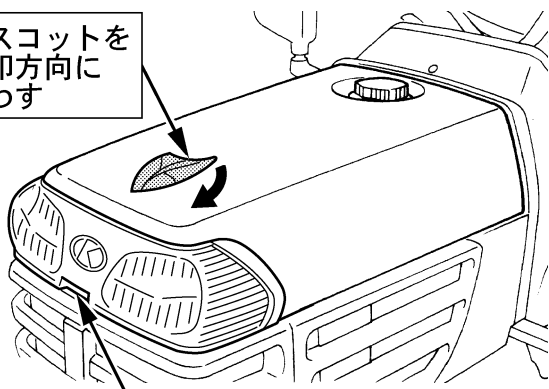
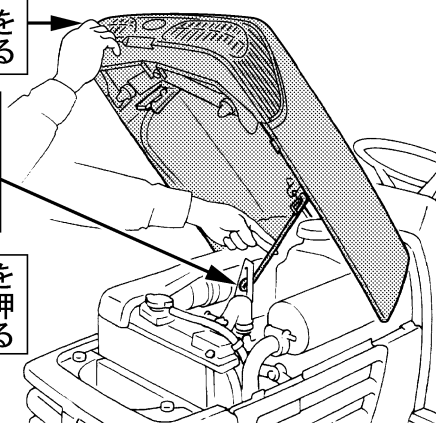
＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

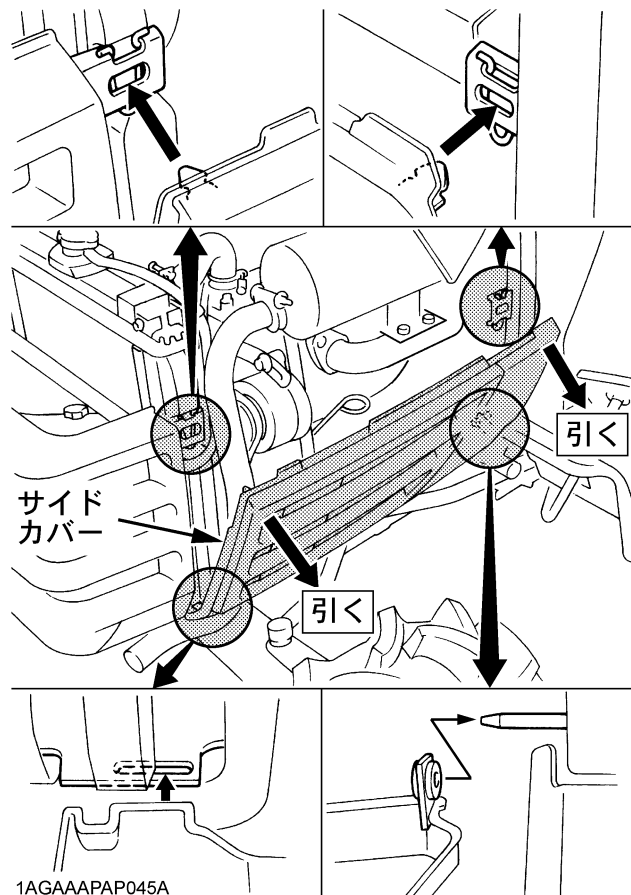
注　意

＊ ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が［ロック］されたか確認してから作業をしてください。

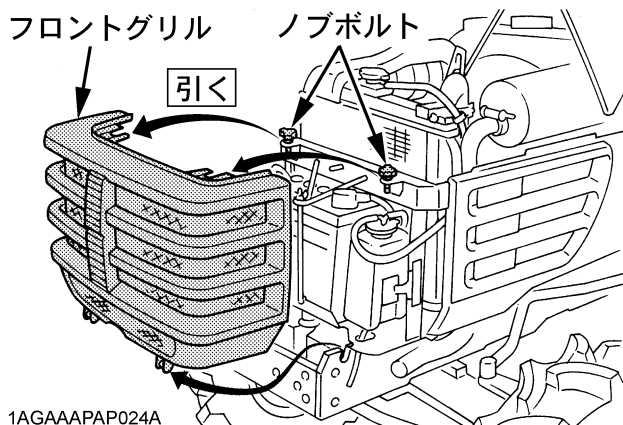
◆ ボンネットの開け方

1AGAAAPAP003B

◆ ボンネットの閉め方

1AGAAAPAP002A

■サイドカバーの外し方

1. カバーの矢印部を外側に引くとカバーは外れます。
2. カバーを取付けるときは，カバー下側のノッチ部を合わせ，矢印部を内側に押し取付けてください。

1AGAAAPAP045A

■フロントグリルの外し方

1. ノブボルトをゆるめるとカバーは外れます。
2. カバーを取付けるときは，カバー下側のノッチ部を合わせ，ノブボルトで取付けます。

1AGAAAPAP024A

日常点検

注　意

- **＊ 火気厳禁**
- **＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。**
- **＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。**
- **＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。**
- **＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。**
- **＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。**

■前日の異常箇所

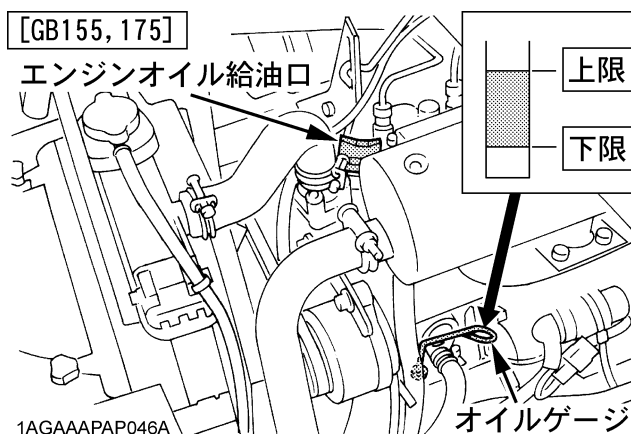
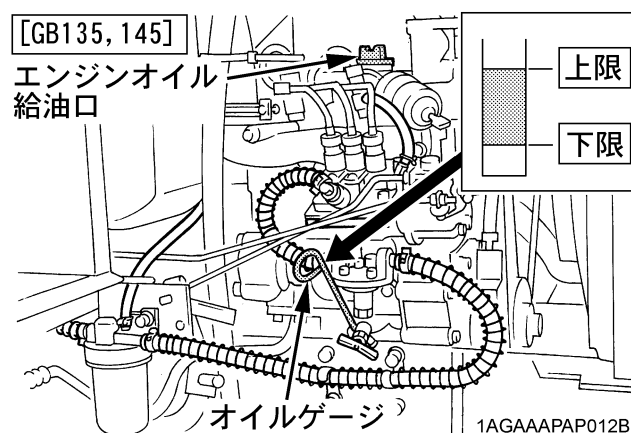
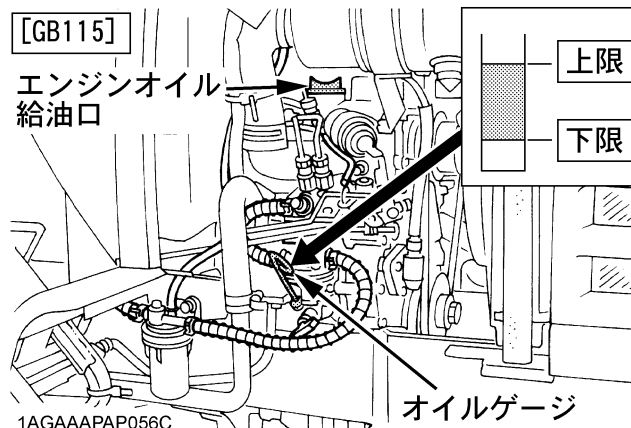
前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

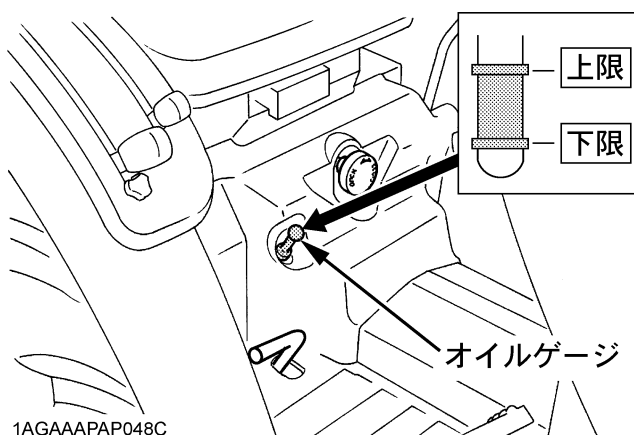
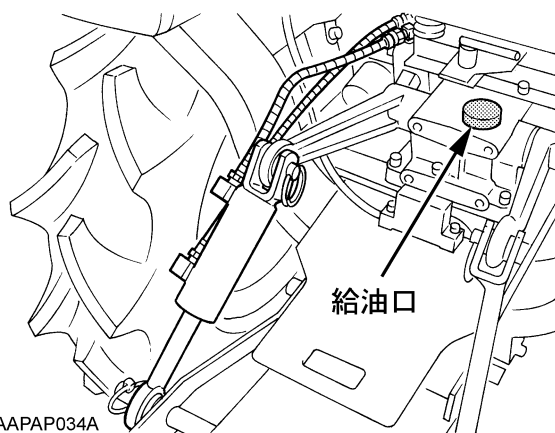
1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き **［下限と上限の間］** にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］** 以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］** 以上には入れないでください。

重　要

- ＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
- ＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

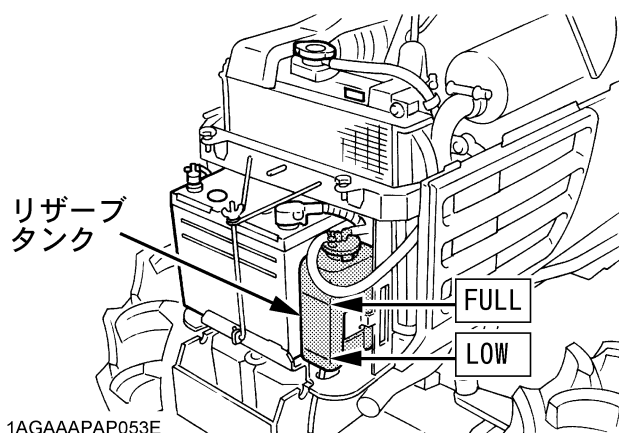
■ミッションオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

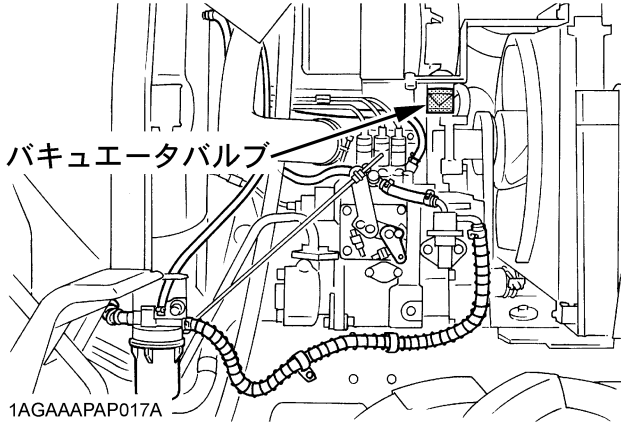
1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き **［下限と上限の間］** にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］** 以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］** 以上には入れないでください。

■冷却水の量

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**［FULL から LOW の範囲］** であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。

補　足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。

■ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換

注 意

* **配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡）・漏電の原因となり，火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は，早めに交換・修理してください。**
  ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金などで代用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
* **また，本機の配線は，防水性など充分考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。**
* **バッテリおよび電気配線の周辺部は，マフラやエンジン周辺部と同様，ワラくず・ゴミ・燃料の付着があると火災の原因になるので，毎日作業前に清掃してください。**

下記項目を点検してください。

1. 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
2. 配線のクランプのゆるみが無いこと。配線がクランプより外れているときは，所定のクランプに配線をセットしてください。
3. ターミナル（端子），カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
4. 各スイッチ，メータが確実に作動すること。

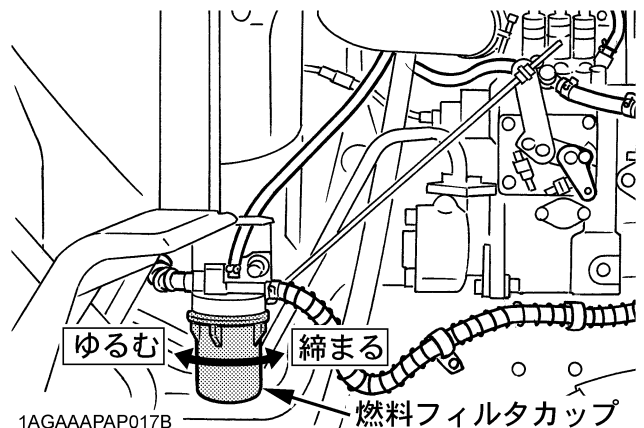
■燃料フィルタの水、沈殿物の点検

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら，カップを**［ゆるむ］**方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄してください。

重 要

* 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。］
* フィルタを外したときは，必ず空気抜きを行なってください。
  （**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）

補 足

* フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。
  しかし，燃料が満タンに近い場合は，燃料戻りパイプからフィルタに燃料が逆流しますので，燃料が半分以下のときに実施してください。

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

- ＊ **タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。**
- ＊ **タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- ＊ **タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）**

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。

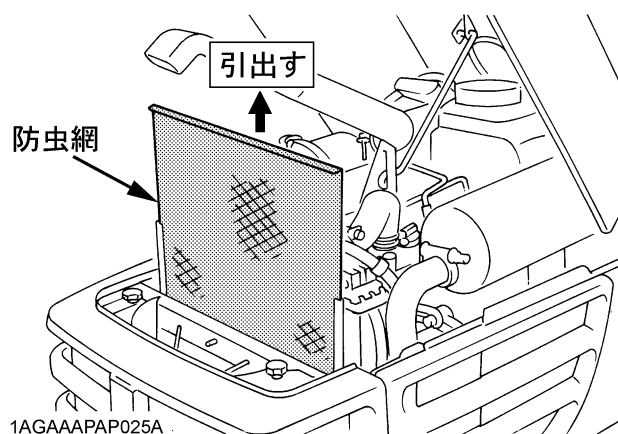
1AGAAAPAP007A

◆ 標準空気圧

	タイヤ	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前輪	4.00-8（ターフ）	350(3.5)
	4.00-10	120(1.2)
	4.00-12	
	5-12	
	5.00-12	
後輪	24 × 8.50-12 (ターフ)	160(1.6)
	7-14	100(1.0)
	7-16	180(1.8)
	8-16	160(1.6)
	8-18	
	130/90-21	400(4.0)

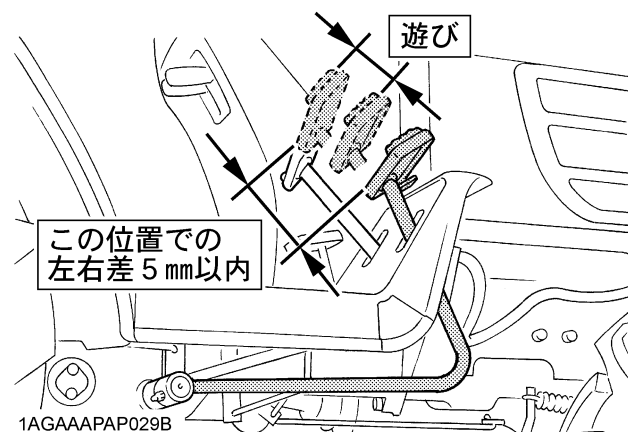
■防虫網の清掃

- ＊ **エンジンを必ず停止して清掃してください。**

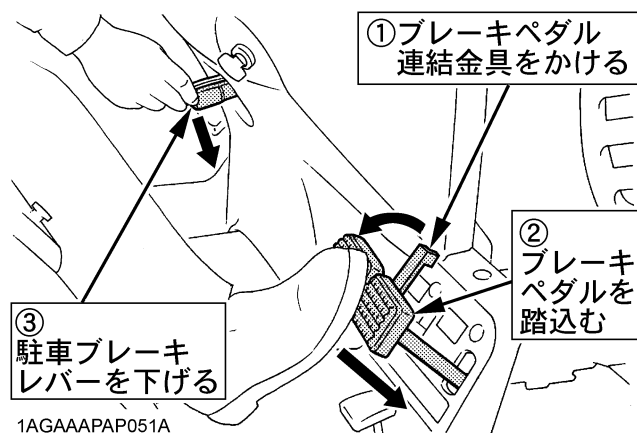
水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがあります。防虫網を引出し清掃してください。

1AGAAAPAP025A

■ブレーキペダルの遊び・点検

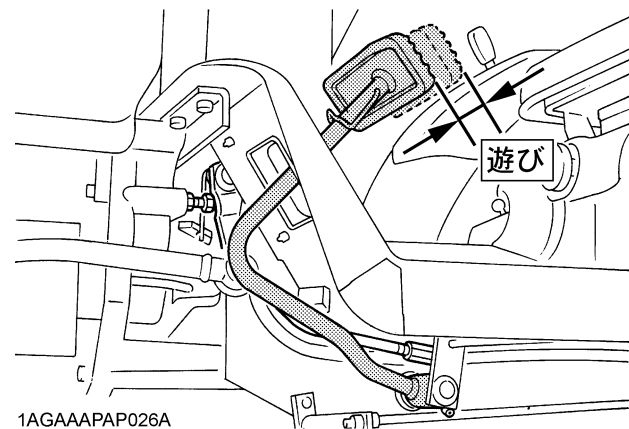
- ＊ **ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。**

ペダルを踏んで遊び量が **［30 〜 40mm］** かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が **［５ mm 以内］** かどうかを調べます。
（調整のしかたは **［100 時間ごとの点検・整備］** の **［ブレーキペダルの点検・調整］** の項を参照）

1AGAAAPAP029B

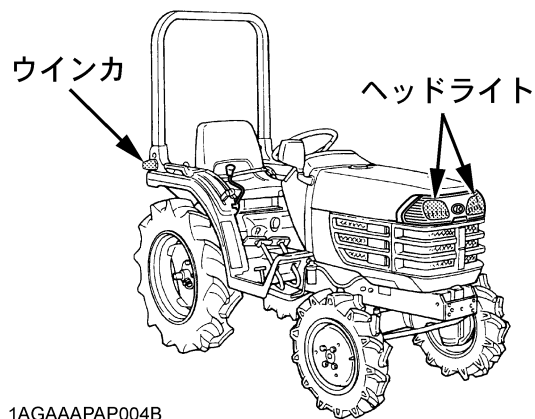
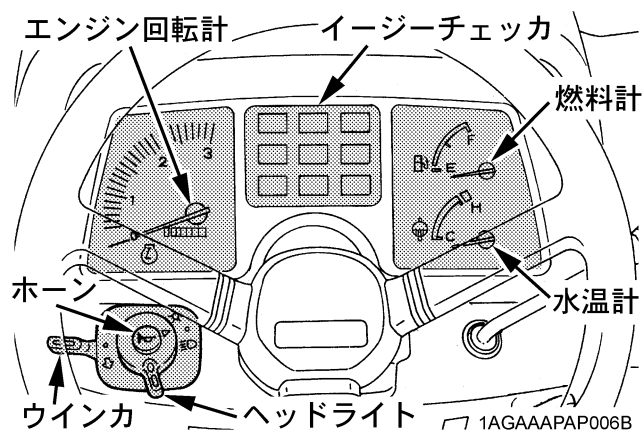
■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**［下げ］**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が**［15 ～ 25㎜］**あるか確認してください。
（調整のしかたは**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［クラッチペダルの点検・調整］**の項を参照）

重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

■メータ・ランプ類の作動

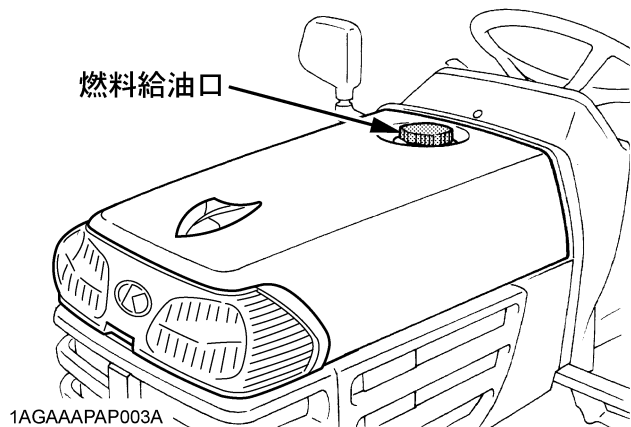
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

■燃料の補給

注　意

＊ 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

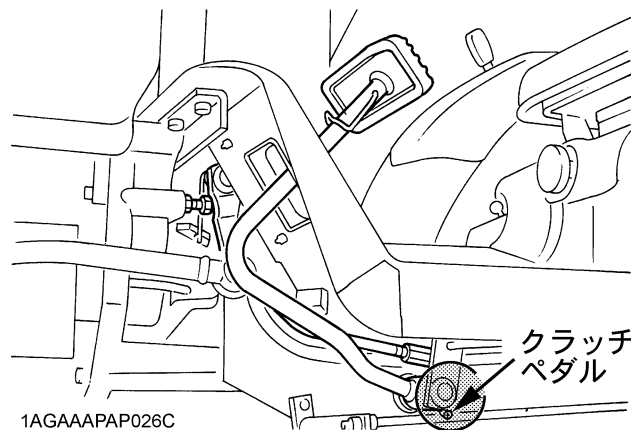
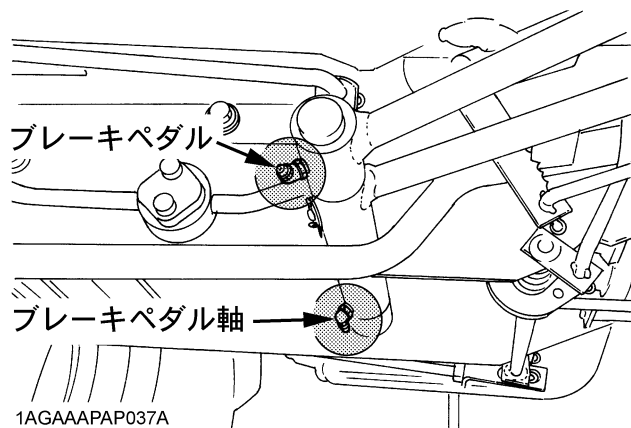
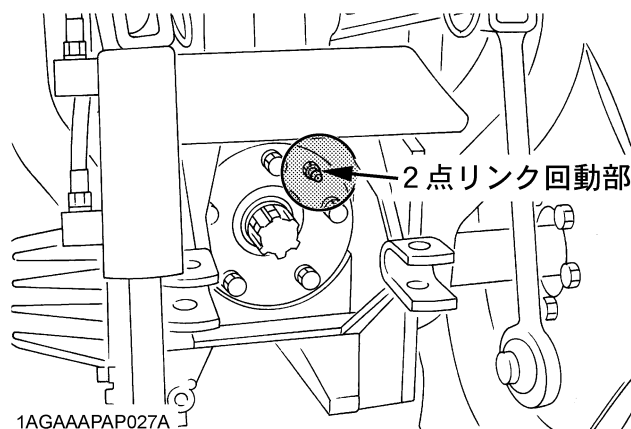
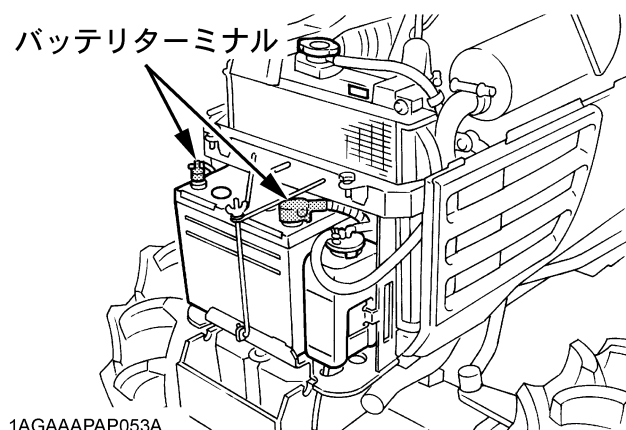
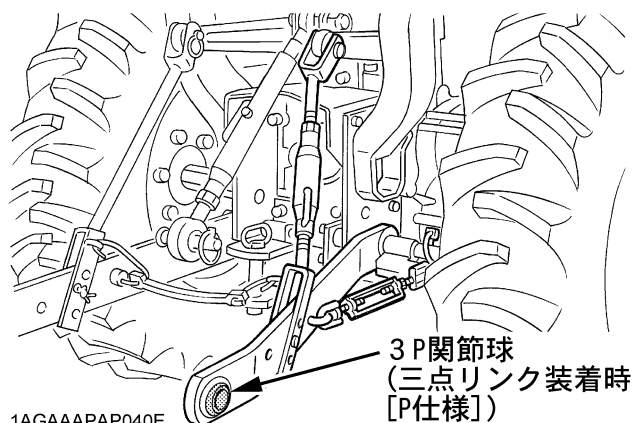
種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以上
１号	０及び－５
２号	-10
３号	-15 及び -20
特３号	-25 及び -30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

重　要

＊ 燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，給油時はこし網を外さないでください。
＊ 燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

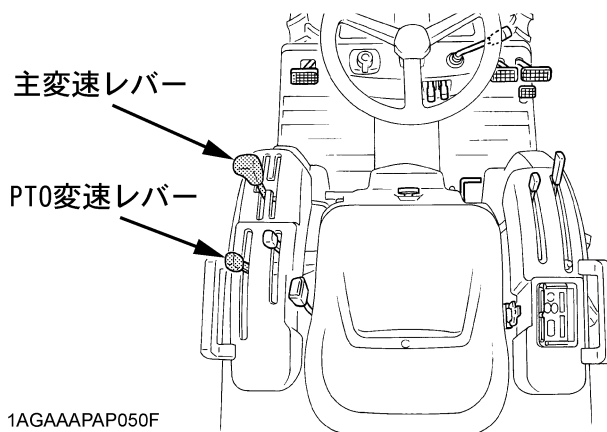
50 時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**［クボタ推奨グリース］**を使用してください。

■エンジン始動システムの点検

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検

1. 運転席に座り，主変速及び PTO 変速レバーを **［中立］（N）** にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを **［最低速］** 位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時 **［始動］** 位置に回します。
   このとき，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，主変速又は PTO 変速レバーをいずれかの位置に変速し，キースイッチを瞬時 **［始動］** 位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

■倍速ターン高速けん制装置の点検

［B 仕様］

注 意

＊ 装置に異常があれば必ず購入先に相談し，整備をした後，ご使用ください。

1AGAAAPAP050G

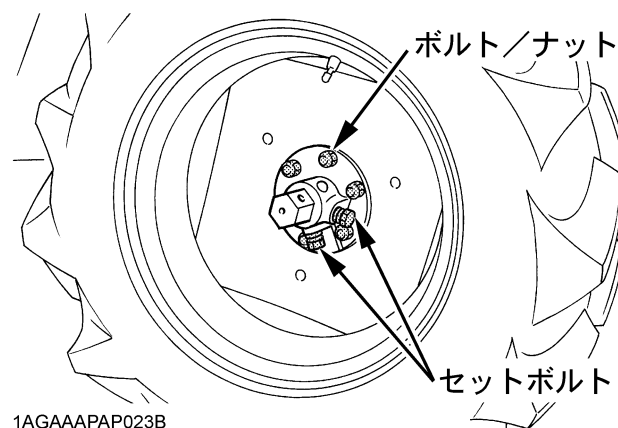
◆ 点検手順

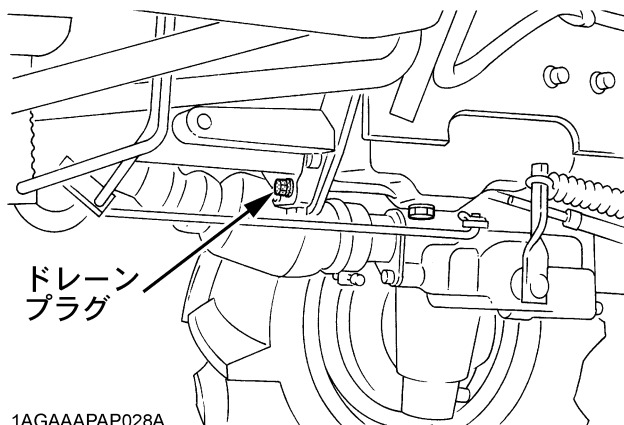
1. 運転席に座り，前輪を直進状態にして副変速レバーを**［低］**，倍速ターンレバーを**［入］**にします。
2. 副変速レバーを**［高］**に入れます。
   このとき，けん制装置がはたらき，倍速ターンレバーは**［入］**（キースイッチ**［入］**のときは，倍速ターンランプも点灯）のまま，倍速ターンは作動しません。
3. この状態で実際に旋回し，倍速ターンが作動しなければ正常です。
   旋回は，平坦な広い場所で，エンジン回転を低くし安全確認を行なってから実施してください。
4. 前輪を直進状態にし，副変速レバーを**［低］**に入れると，けん制装置が自動復帰します。
   この状態で旋回し，倍速ターンが作動すれば正常です。

■タイヤ取付けボルトの点検

＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

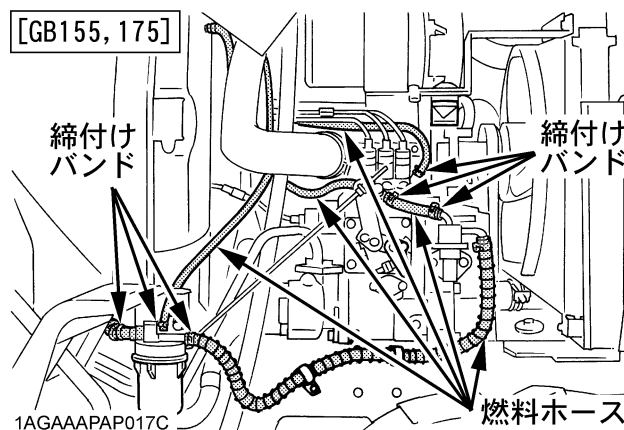
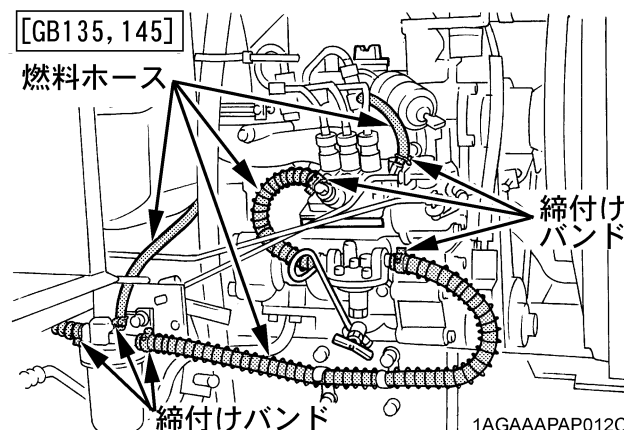
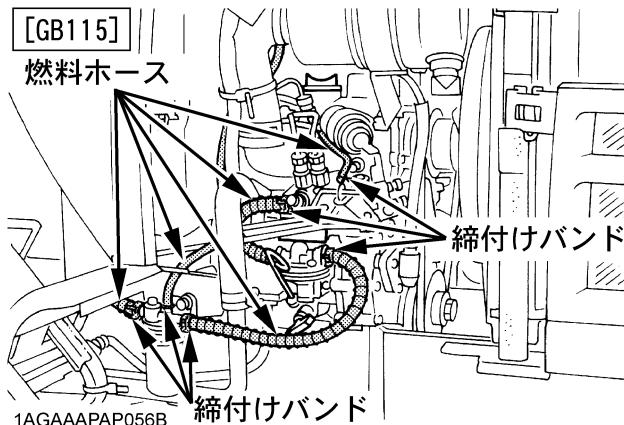
1AGAAAPAP004C

1AGAAAPAP023B

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

■燃料ホースの点検

**＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。**

燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

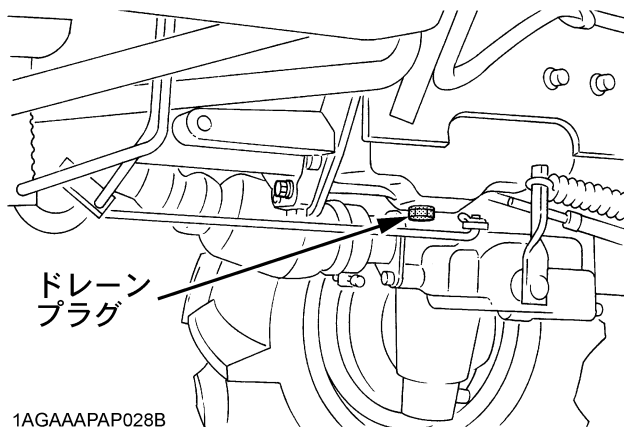
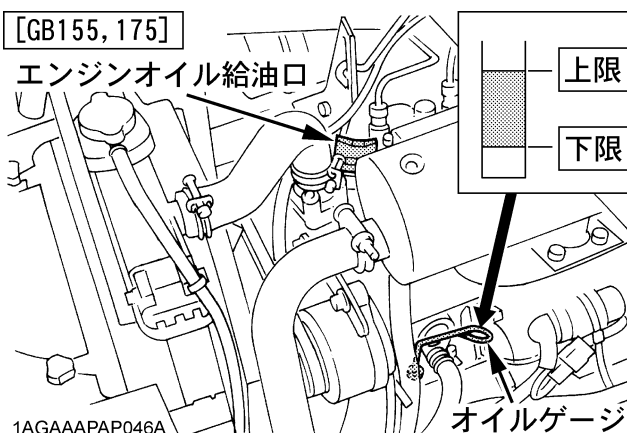
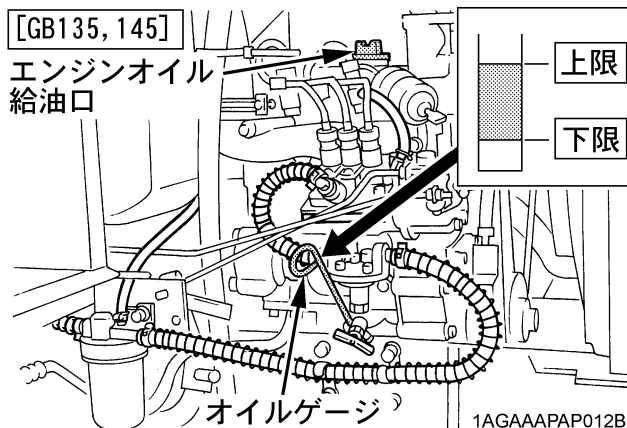
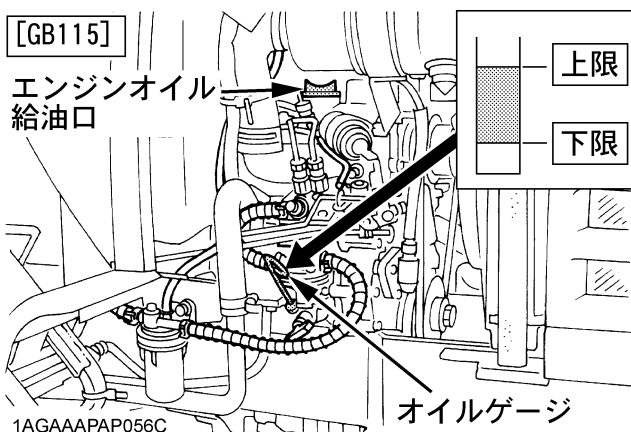
1. ホース類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料ホースを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）

重 要

＊ 交換時にホースや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

> **注　意**
>
> ＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。

2. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。

重　要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。

＊ 気温により次のように使いわけてください。

15 ℃以下	D10W-30（オールシーズン用）
15 ℃以上	D30，又はD10W-30

＊ 冬期は必ずD10W-30を使用してください。

＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。

＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約5分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■バッテリ電解液の点検

危 険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警 告

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。

＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。

＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（−）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（−）コードを接続してください。

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆ バッテリ液の点検

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。上面のインジケータの表示状態により補充電してください。

◆ インジケータの見方

インジケータ表示状態	色	内容
インジケータ表示状態	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。6 〜 7A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
	白	交換時間です。

◆ バッテリの取付け，取外し

注 意

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（+）コードを外してください。

＊ 取付けるときは，必ず（+）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重 要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。

＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（50B24L）のバッテリを使用してください。

＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（+），（−）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ 補充電のしかた

> **警 告**
>
> **＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。**

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（＋）と（－）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）に，バッテリの（－）を充電器の（－）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

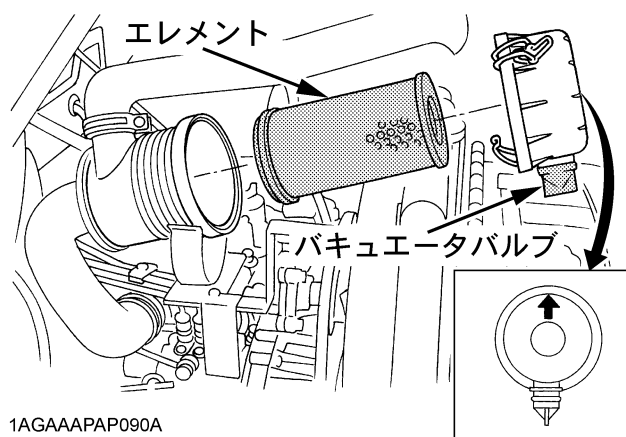
■エアクリーナエレメントの清掃

◆ エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。（エアーの圧力は0.49MPa（5kgf/㎠）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

◆ エレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。

重　要

＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

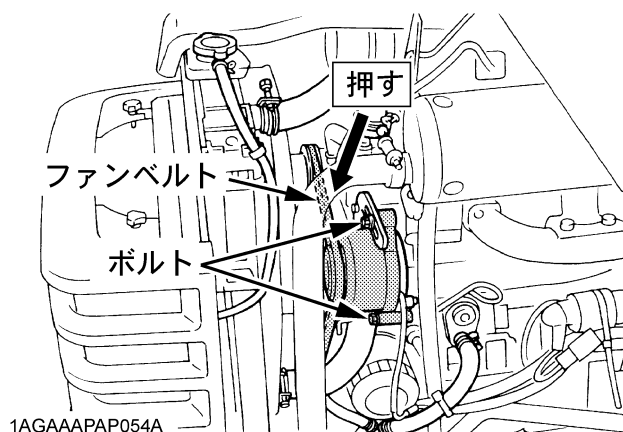
◆ バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約98N(10kgf) の力で押さえて，約７ mm たわむ程度

◆ 調整方法

1. ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
2. 調整後はボルト・ナットを確実に締付けてください。

重　要

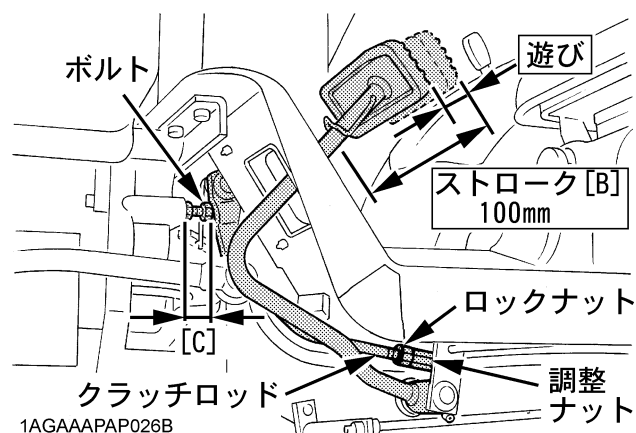
＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで 15 ～ 25mm

◆ 調整方法

1. ロックナットをゆるめ調整ナットを回し，ペダルの遊びを調整します。
2. ペダルを踏込んだときのストローク［B］を点検します。
   ［B］が 100mm になるようボルトの高さ［C］を調整してください。
3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。

重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起こし損傷につながります。

■ブレーキペダルの点検・調整

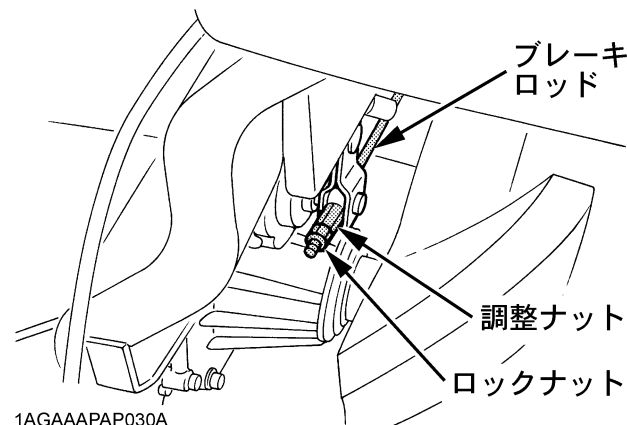
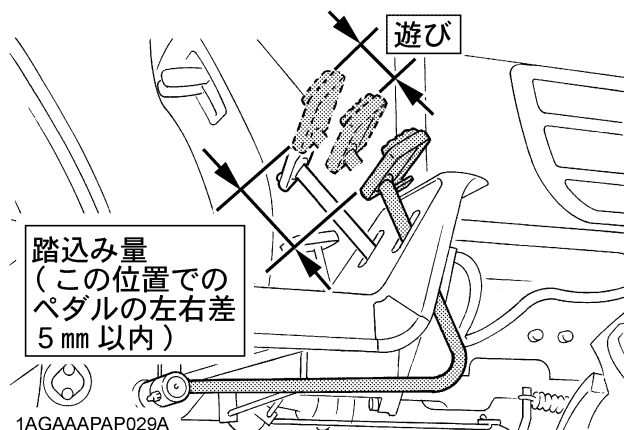
＊ 点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。

＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

＊ 調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［5 mm 以内］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで 30 ～ 40mm

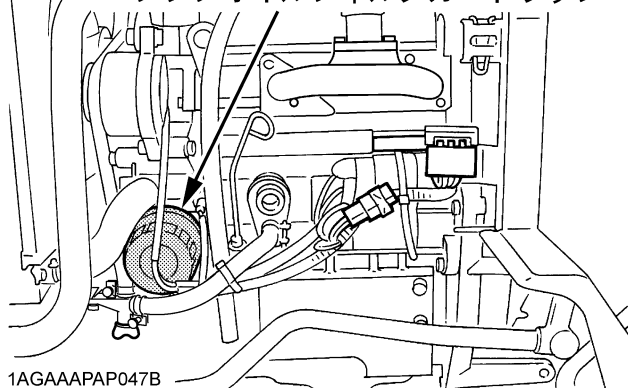
◆ 調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめ調整ナットを回し，左右のペダルの踏込み量の差が５mm以内になるようペダルの遊び量を調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
4. 駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。

200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

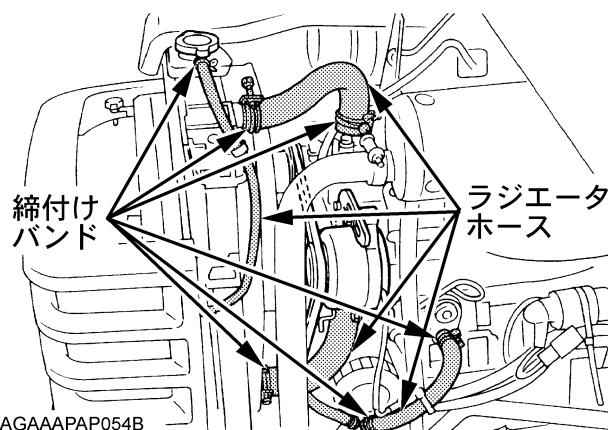
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

補　足

＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

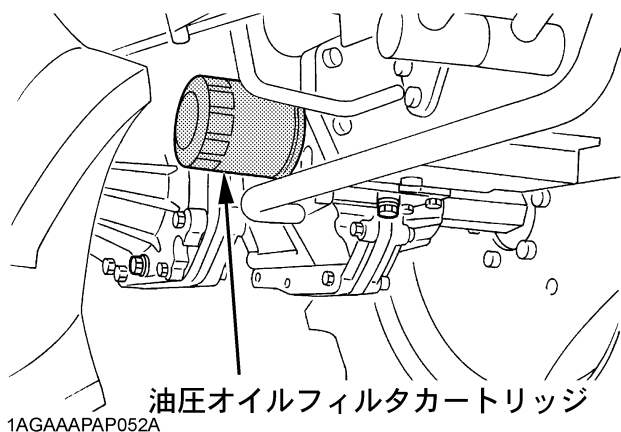
■ラジエータホースの点検

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

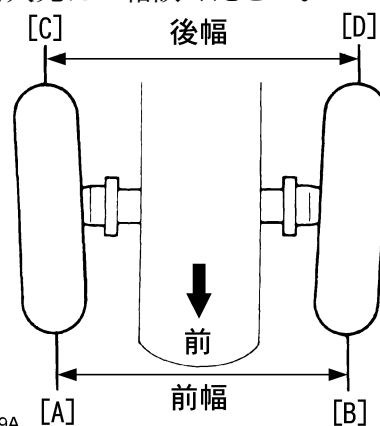
純正部品のカートリッジと交換してください。

1. ミッションオイルを抜きます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
4. ミッションオイルを規定量まで補給します。
5. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認し，作業機（ロータリ）を下げてからエンジンを止めます。
6. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
（ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**［300 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照）

■トーイン調整・タイロッドの点検

注　意

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆ 点検

前輪の前幅 (A)(B) と後幅 (C)(D) を測り，(C)(D) ー (A)(B)＝０～20㎜になっているかを調べます。この数字から外れている場合は修理を必要としますので購入先にご相談ください。

補　足

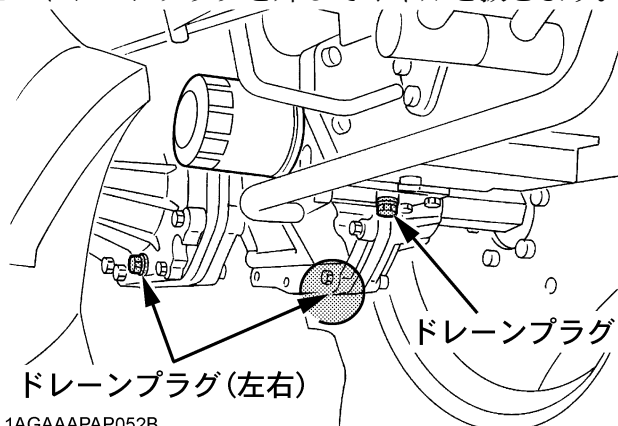
＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド(関接球)やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。
＊ 標準空気圧で，トーインの点検・調整を行なってください。

300 時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

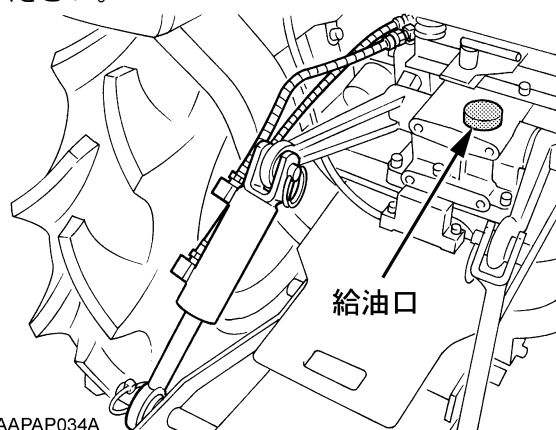
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

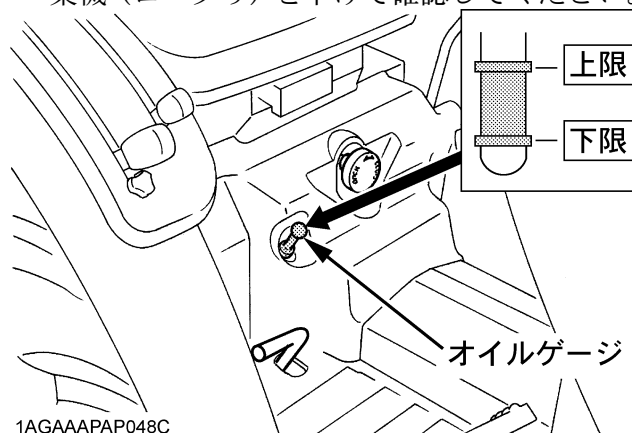
1. ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。

1AGAAAPAP052B

補　足

＊ 給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

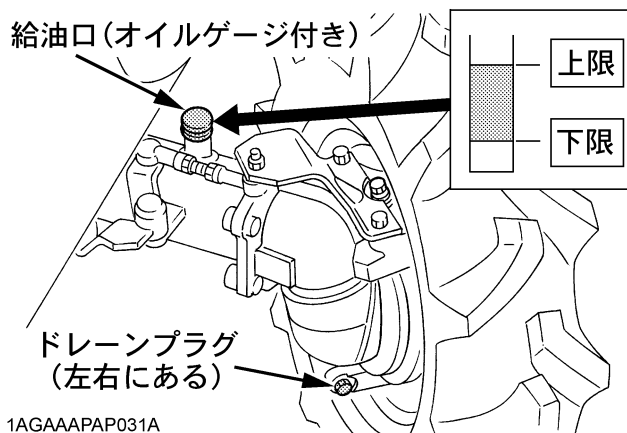
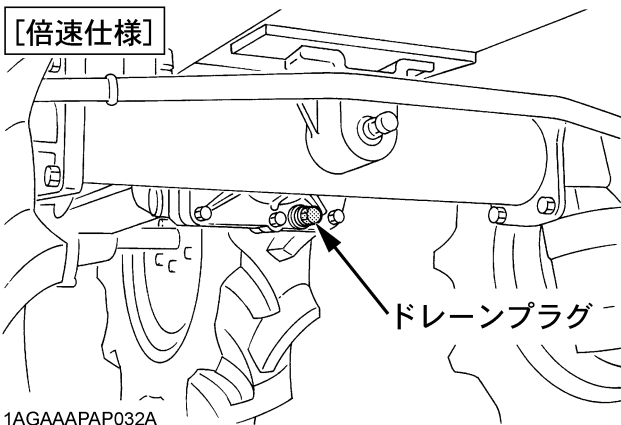
2. ドレーンプラグを締めます。
3. 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

1AGAAAPAP034A

4. 約５分間運転し，ドレーンプラグ締付け部より油漏れがないか確認し，エンジンを停止します。
5. 一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。

1AGAAAPAP048C

■前車軸ケースオイルの交換

1. 給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを排出します。

1AGAAAPAP031A

1AGAAAPAP032A

2. ドレーンプラグを締めます。
3. ミッションオイルを給油口から規定量入れてください。

重　要

＊ オイルが左右のケースに充満するまで時間がかかります。
　給油の約 10 分後，給油プラグを差込み油面を点検し，不足していれば補給します。

400 時間ごとの点検・整備

■燃料フィルタエレメントの清掃交換

燃料が満タンに近い場合はカップを外したとき，燃料戻りチューブからフィルタに燃料が逆流します。
フィルタエレメント交換の作業は，燃料タンクの燃料が半分以下のときに実施してください。

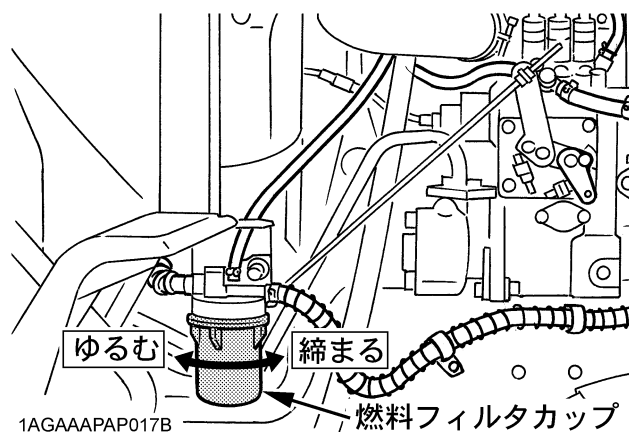
1. カップを **［ゆるむ］** 方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
2. 新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。（**［必要に応じた点検・整備］** の **［燃料の空気抜きのしかた］** の項参照）

補　足

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。

1AGAAAPAP017B

■ステアリングギヤーボックスオイルの点検

［マニュアルステアリング仕様］
（パワーステアリング仕様はオイルを補給する必要はありません。）

購入先で点検・補給してもらってください。

600 時間ごとの点検・整備

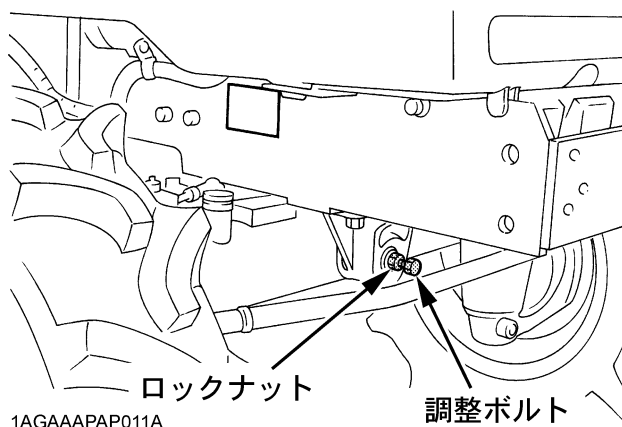
■前部デフケース前後遊びの調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと, 前輪が著しく振れたり, ハンドルに振動が伝わってきます。

◆ 点検

前後方向のガタを点検し, ガタがあれば調整します。

◆ 調整

前輪タイヤ（両輪）を持上げて, ロックナットをゆるめ, 調整ボルトを締込みガタを調整します。

800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

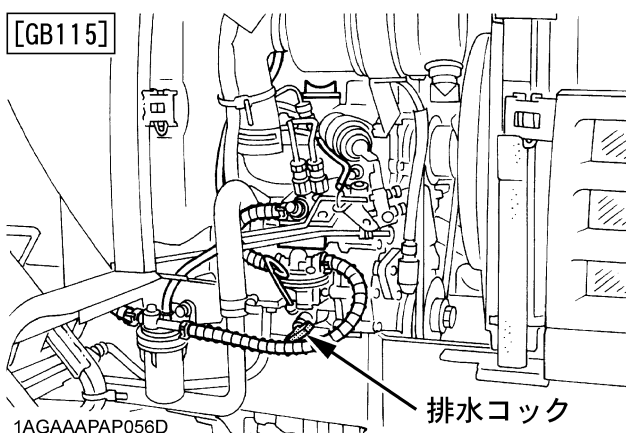
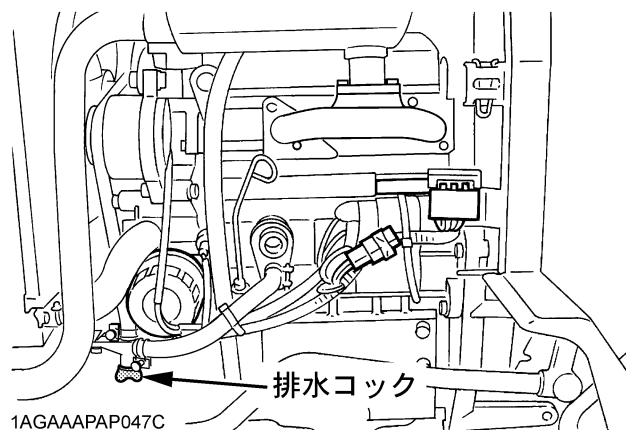
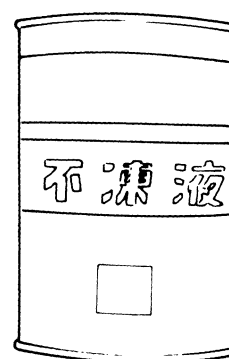
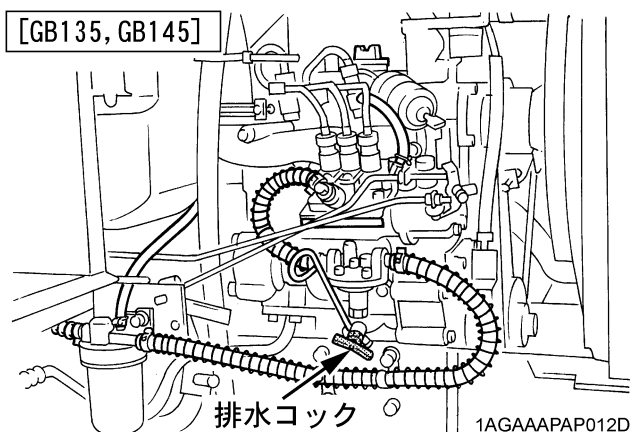
■エアクリーナエレメントの交換

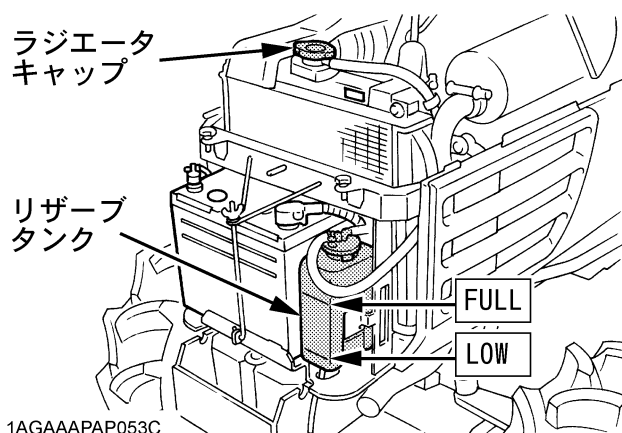
エレメントの交換は 1 年間使用後, 又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。
(**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［エアクリーナエレメントの清掃］**の項を参照。)

2 年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

＊ ラジエータキャップは, エンジン運転中及び停止直後に開けると, 熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって, 冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し, 余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き, 冷却水を全部出します。
(GB115・135・145 仕様は, エンジンの右側面にも排水コックがあります。)
リザーブタンクの排水は, リザーブタンクを上方へ引き抜き排水します。

1AGAAAPAP012D

1AGAAAPAP097A

1AGAAAPAP053C

2. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。（GB115・135・145仕様は両方の排水コックを閉めます。）
3. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

◆ **不凍液の使い方**

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
（工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。）

重　要

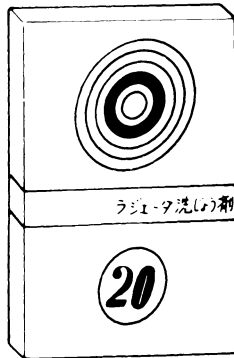
＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を50％入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比％	保証不凍結温度
10	-4
15	-5
20	-8
25	-11.5
30	-15
35	-20
40	-25
45	-30
50	-35
55	-40

■**ラジエータの洗浄**

洗浄には，クボタラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

＊ ２年使用ごと
＊ 不凍液を混入するとき
＊ 不凍液混入から水だけに変えるときなどに使用してください。

1AGAAAPAP098A

■**ラジエータホースの交換**

■**燃料ホースの交換**

■**モンローシリンダホースの交換**
［M 仕様］

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

必要に応じた点検・整備

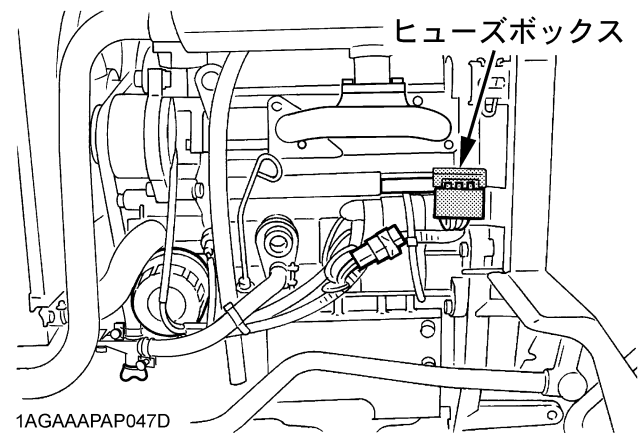
■**燃料の空気抜きのしかた**

燃料の空気抜きは, 次のようなときに行なう必要があります。

● 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
● 燃料切れが起きたとき
● トラクタを長時間使用しなかったとき

1. タンクに燃料を満たす。
2. エンジンを始動し, 約 1 分間運転後停止する。

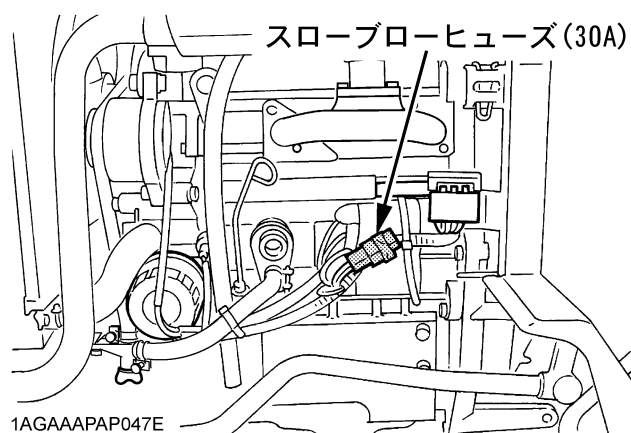
■**ヒューズの交換**

1AGAAAPAP047D

1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊ トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは, 購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

■ランプ類の交換

1. ヘッドランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2. その他のランプはレンズを外し，バルブを交換します。

格　納

長期格納時の手入れ

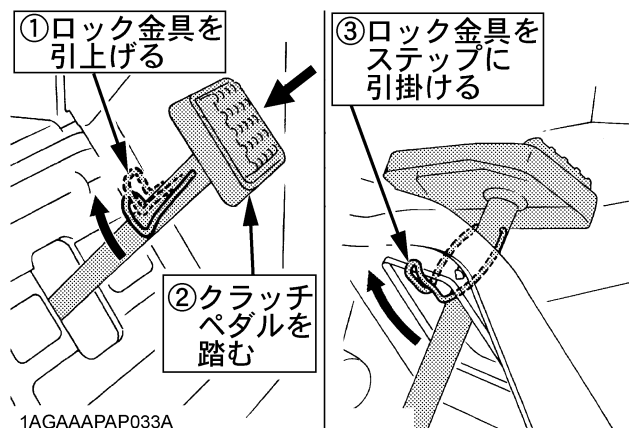
注　意

＊ 長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ［切り］に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
＊ シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000 回転／分以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
6. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆ クラッチ［切］保持の方法

(1) ロック金具を引上げます。
(2) クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具を引上げ，ステップに引掛けてロックします。
(3) 解除するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具をペダルに押込みます。

7. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
8. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
9. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
10. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
11. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
12. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
13. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
14. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

重　要

＊ 長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
＊ 灯火類は消灯した状態で洗車してください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
＊ 格納時は，必ず **［切］** の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 空気抜きをする。 （**［必要に応じた点検・整備］**の項を参照してください。）
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● ラジエータに熱湯をそそぐ。 ● 気温によってオイルの使い分けをする。 （冬期は D10W-30 を使用）
	4. バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアークリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアークリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
水温計がH付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水漏れの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● フロントグリル，ラジェータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. ノズル不良	● ノズルを点検する。
	3. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式名			GB115	GB115J	GB115DA5	GB115D9	GB115HP
駆動方式			四輪駆動				
機体寸法	全長（mm）		1920				2385
	全幅（mm）		920 ～ 1040		985	920 ～ 1040	920 ～ 925
	全高（mm）		1710	1735	1660	1710	1810
	軸距（mm）		1200				
	輪距	前輪（mm）	725	710	795	725	690
		後輪（mm）	720 ～ 870		770	670 ～ 870	650 ～ 800
	最低地上高（mm）		230	250	180	230	280
質量（kg）			465 ～ 480	475 ～ 490	455	465	525
エンジン	機関型式		Z482				
	形式		水冷４サイクル２気筒立形ディーゼル（E-TVCS）				
	総排気量（L）		0.479				
	出力 / 回転速度 kW/rpm（PS/rpm）		7.7/3000（10.5/3000）				
	使用燃料		ディーゼル軽油				
	燃料タンク容量（L）		13				
	始動方式		セルモータ式				
	バッテリ		50B24L-MF				
タイヤ	前輪		4.00-10	4.00-12	4.00-8（ターフ）	4.00-10	5-12
	後輪		7-14	7-16	24 × 8.50-12（ターフ）	7-14	130/90-21
車体	クラッチ方式		乾式単板（シングル）				
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）				
	かじ取り方式		ボールスクリュー式				
	差動方式		２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）				
	変速方式		選択かみ合式，常時かみ合式併用				
変速段数			前進６段，後進２段				
走行速度（km/h）	前進		0.56 ～ 12.5	0.60 ～ 13.4		0.56 ～ 12.5	0.64 ～ 14.0
	後進		0.89 ～ 5.06	0.96 ～ 5.41		0.89 ～ 5.06	1.01 ～ 5.72
最小旋回半径（m）			1.6				
PTO	回転速度 / エンジン回転速度	rpm	523，917，418（逆転）/3000				
	軸寸法（mm）		JIS35				
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール				
	装置方式		２点リンク				３点リンク

この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付表

型式名			GB135，GB135D9	GB135BAN	GB135DA5	GB135J
駆動方式			四輪駆動			
機体寸法	全長（mm）		2005			2020
	全幅（mm）		920～1040		985	920～1060
	全高（mm）		1785	1735	1660	1810
	軸距（mm）		1270			
	輪距	前輪（mm）	770		840	750
		後輪（mm）	720～870		770	720～870
	最低地上高（mm）		250		180	275
質量（kg）			480～505	490	470	490～515
エンジン	機関型式		D662			
	形式		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル（E-TVCS）			
	総排気量（L）		0.656			
	出力／回転速度 kW/rpm（PS/rpm）		9.6/2800（13.0/2800）			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量（L）		13			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ		50B24L-MF			
タイヤ	前輪		4.00-12		4.00-8（ターフ）	5-12
	後輪		7-16		24×8.50-12（ターフ）	8-16
車体	クラッチ方式		乾式単板（シングル）			
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）			
	かじ取り方式		ボールスクリュー式			
	差動方式		２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）			
	変速方式		選択かみ合式，常時かみ合式併用			
変速段数			前進６段，後進２段			
走行速度（km/h）	前進		0.56～12.5			0.60～13.4
	後進		0.89～5.06			0.96～5.41
最小旋回半径（m）			1.65			
PTO	回転速度／エンジン回転速度	rpm	544，972，443（逆転）/2800			
	軸寸法（mm）		JIS35			
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール			
	装置方式		２点リンク			

この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

型式名			GB145	GB155	GB155B9	GB175	GB175B9
駆動方式			四輪駆動				
機体寸法	全長（mm）		2020	2045	2020	2045	2020
	全幅（mm）		920 ～ 1060	920 ～ 1070	920 ～ 1060	920 ～ 1070	920 ～ 1060
	全高（mm）		1810	1835	1810	1835	1810
	軸距（mm）		1270				
	輪距	前輪（mm）	750				
		後輪（mm）	720 ～ 870				
	最低地上高（mm）		275	285	275	285	275
質量（kg）			525 ～ 540	550 ～ 565	530	550 ～ 565	530
エンジン	機関型式		D722	D905		D1005	
	形式		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル（E-TVCS）				
	総排気量（L）		0.719	0.898		1.001	
	出力 / 回転速度 kW/rpm（PS/rpm）		10.3/2800 (14.0/2800)	11.0/2500 (15.0/2500)		12.5/2500 (17.0/2500)	
	使用燃料		ディーゼル軽油				
	燃料タンク容量（L）		13				
	始動方式		セルモータ式				
	バッテリ		50B24L-MF				
タイヤ	前輪		5-12	5.00-12	5-12	5.00-12	5-12
	後輪		8-16	8-18	8-16	8-18	8-16
車体	クラッチ方式		乾式単板（シングル）				
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）				
	かじ取り方式		ボール スクリュー式	ボールスクリュー又はインテグラル型パワーステアリング			
	差動方式		２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）				
	変速方式		選択かみ合式，常時かみ合式併用				
変速段数			前進６段，後進２段				
走行速度（km/h）		前進	0.60 ～ 13.4	0.64 ～ 14.0	0.60 ～ 13.4	0.64 ～ 14.0	0.60 ～ 13.4
		後進	0.96 ～ 5.41	1.01 ～ 5.72	0.96 ～ 5.41	1.01 ～ 5.72	0.96 ～ 5.41
最小旋回半径（m）			1.65				
PTO	回転速度 / エンジン回転速度	rpm	544，972，443（逆転）/2800	550，965，440（逆転）/2500		550，965，440（逆転）/2500	
	軸寸法（mm）		JIS35				
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール				
	装置方式		２点リンク				

この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付表

■走行速度表

(km/h)

副変速レバー	主変速レバー	GB115, GB135 GB115D9, GB135D9 GB135DA5, GB135BAN		GB145 GB115J, GB135J GB115DA5 GB155B9		GB155, GB175 GB115HP, GB175B9	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進
低	1	0.56	0.89	0.60	0.96	0.64	1.01
	2	1.16		1.24		1.31	
	3	2.03		2.17		2.29	
高	1	3.19	5.06	3.42	5.41	3.61	5.72
	2	6.53		6.99		7.39	
	3	12.5		13.4		14.0	

■ PTO 回転速度表

(rpm)

		GB115	GB135	GB145	GB155	GB175
PTO 回転	1段	523	554	554	550	550
	2段	917	972	972	965	965
エンジン回転		3000	2800	2800	2500	2500

■標準付属品

品名	数量/台	備考	品名	数量/台	備考
10-12 スパナ	1		ヒューズ **[GB155・175]**	各1	5, 10, 20 アンペア
14-17 スパナ	1		メインスイッチ キーアッシ	1	
19-22 スパナ	1		取扱説明書	1	
21-26 スパナ	1		保証書（トラクタ）	1	
プライヤ	1		保証書（ロータリ）	1	ロータリ装着時 のみ
ヒューズ **[GB115・135・145]**	各1	5, 10, 15, 20 アンペア	PTO 軸キャップ	1	

主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	エレメントアッシ	6A100-8263-0	9	ヒューズ 10A	48100-5588-0
2	エレメント（インナー）	32721-5824-2	10	ヒューズ 15A **[GB115・135・145]**	52200-4162-0
3	フィルタ，アッシ（フューエル）	6A320-5886-0	11	ヒューズ 20A	48100-5589-0
4	フィルタ	6A320-5993-0	12	スローブローヒューズ 30A	1G111-6572-0
5	油圧オイルフィルタカートリッジ	6A600-3901-0	13	デンキュウ	31391-3436-0
6	オイルフィルタカートリッジ **[GB155・175]**	15241-3209-0	14	デンキュウ	37410-5272-0
7	オイルフィルタカートリッジ **[GB115・135・145]**	15853-3243-0	15	ランプ（12V, 1.7W）	6C040-5514-0
8	ヒューズ 5A	68331-5373-0			

アタッチメント一覧表（純正アタッチメントを使いましょう）

分類	品番	品名	用途・仕様		併用アタッチメント	適応形式			
						GB115 GB115D9	GB115DA5 GB135DA5	GB135 GB145 GB155 GB175 GB115J GB135J GB135BAN GB155B9 GB175B9	GB115HP
補助車輪関係	96023- 0719-2	P15 反転ストレークアッシ	外径72,77cm 幅 15cm	5セット／台	96023-0249-0 7-14 ストレーク取付け台	○			
					96023-0250-0 7-16 ストレーク取付け台			○	
	99036- 2500-0	P200 反転ストレークアッシ	外径72,77cm 幅 20cm		96023-0250-0 7-16 ストレーク取付け台			○	
	96023- 0739-2	P30 反転ストレークアッシ	外径72,77cm 幅 30cm		96023-0250-0 7-16 ストレーク取付け台			○	
	96023- 0249-0	7-14 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用		P15 の反転ストレークを選択	○			
	96023- 0250-0	7-16 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用		P15, P200, P30 の反転ストレークを任意選択			○	
ウエイト関係	96315- 1550-0	前部ウエイトアッシ	14kg/ 個 ３個まで装着できます			○	○	○	標準出荷
	96315- 1530-0	バンパーウエイトアッシ	15kg ウエイト			○	○	○	
	96312- 2061-0	7-14 ホイルウエイトアッシ	重量 21 kg ×２個（後輪用）			○		○	
その他	96397- 1510-0	B1500 洗車ポンプアッシ	吐出量 55L/ 分 PTO 軸駆動			○	○	○	○
	96314- 1550-0	GB15 作業灯アッシ	12V15W			○	○	○	○
	96316- 2750-0	GB15 ヒッチアッシ	（P 仕様トラクタには標準装備されている）			○		○	
	96314- 4880-0	キャノピ, アッシ（GB16）				○	○	○	○
	96316- 1430-0	３テンリンクキット	３点リンク作業機用延長ヒッチ付			○		○	3P 付き

インプルメント一覧表（純正インプルメントを使いましょう）

＊ トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装着し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装着してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

機種名	品番	品名	適応型式					メーカ
			GB115	GB135	GB145	GB155	GB175	
サイドロータリ	7F110-02010	RS1005SE	○					クボタ
	7F110-00010	RS1005SE-B	○					
	7F116-03890	RS1005SE-K	○					
	7F111-02010	RS1105		○				
	7F111-00010	RS1105-B		○				
	7F111-02020	RS1105-V		○				
	7F111-00020	RS1105-VB		○				
	7F101-02010	RS1105E		○				
	7F101-00010	RS1105-EB		○				
	7F117-03890	RS1105-K		○				
	7F118-00810	RS1105N-EB		○				
	7F112-02010	RS1205			○	○	○	
	7F112-00010	RS1205-B			○	○	○	
	7F112-02020	RS1205-V			○	○	○	
	7F112-00020	RS1205-VB			○	○	○	
	7F113-02010	RS1305			○	○	○	
	7F113-00010	RS1305-B			○	○	○	
	7F113-02020	RS1305-V			○	○	○	
	7F113-00020	RS1305-VB			○	○	○	
	7F114-02010	RS1405				○	○	
	7F114-00010	RS1405-B				○	○	
	7F115-02010	RS1505				○	○	
	7F115-00010	RS1505-B				○	○	

機種名	品番	品名	適応型式					メーカ
			GB115	GB135	GB145	GB155	GB175	
センタロータリ	7F188-00010	RK805W-B		○	○	○	○	クボタ
	7F189-00092	RK805W2-SPB	○	○		○	○	
	7F180-02010	RK1105SE	○	○				
	7F180-00010	RK1105SE-B	○	○				
	7F181-02010	RK1105		○	○	○	○	
	7F181-02020	RK1105-V		○	○	○	○	
	7F181-00010	RK1105-B		○	○	○	○	
	7F181-00020	RK1105-VB		○	○	○	○	
	7F183-02010	RK1305			○	○	○	
	7F183-02020	RK1305-V			○	○	○	
	7F183-00010	RK1305-B			○	○	○	
	7F183-00020	RK1305-VB			○	○	○	
マルチロータリ	78417-00000	RT112A（M1）		○	○	○	○	
グレイタスジュニア	L1047-00000	JLH15M		○	○	○	○	
	L1048-00000	JLH15N		○	○	○	○	
	L1049-00000	JLH15K		○	○	○	○	
	L1050-00000	JLH15L		○	○	○	○	
	L1145-00000	JLH110M	○					
	L1146-00000	JLH110N	○					

補　足

（ロータリ）

Ｂ：後２輪付　Ｖ：Ｖカットカバー付

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成13年7月31日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ SF−GB15

合格番号：201006

種　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名

クボタ GB170	クボタ B72	クボタ GB150	クボタ GB15
クボタ GB140	クボタ GB14	クボタ GB13	クボタ GB130

2．主要諸元（最大トラクター）

- ■ 型式名 ： クボタ GB170
- ■ 種類 ： 4輪駆動
- ■ 質量（フレーム付き） kg ： 566
- ■ 軸距 mm ： 1270
- ■ 機関出力／回転速度 kW{PS}/rpm ： 12.5{17}/2500

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，取付金具を介してディファレンシャルギヤケース部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（2点式）

3．主要寸法 ※

項目			寸法
■ 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	90.0 cm
■ フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	129.5 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	69.5 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	− cm
■ 戸口の幅	（上部）	：	− cm
	（中部）	：	− cm
	（下部）	：	− cm
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	：	− cm
■ 最低位ステップの高さ	（フートプレートの高さ）	：	50.0 cm
■ フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	184.0 cm
■ フレームの全幅		：	80.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	21.0 cm

※1．クボタ GB170 （タイヤサイズ ： 前輪 5.00-12 2PR 後輪 8-18 4PR）に装着時。
　2．トラクターシートの銘柄型式 ： テイ・エス・テック，6A320-45704

4．主要材料

- ■ 主フレーム ： STKR 400, STK 400, SS 400, SPHC, SGD 400-D
- ■ 装着ブラケット ： SS 400
- ■ 組立・装着ボルト ： S 45 C, S 40〜45 C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。

- ■ 基準質量 ： 570 kg
- ■ 所要吸収エネルギー ： 後部負荷 0.92 kJ｛94 kgf·m｝
　　側部負荷 1.91 kJ｛195 kgf·m｝
- ■ 圧壊力 ： 8.38 kN｛855 kgf｝

2）試験後のフレームの永久変位

- ■ 後部（前方へ） ： 右側 11.0 cm 左側 9.0 cm
- ■ 側部（右側方へ） ： 14.5 cm
- ■ 上部（下方へ） ： 右側 3.0 cm 左側 1.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 ： 9.5 cm

2．騒音 ※

- ■ 89 dB(A) ［クボタ GB170］

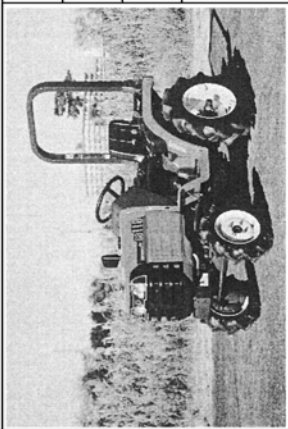
※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

本フレームは，既合格機（合格番号 97069）であり，装着トラクター4型式（クボタ GB170，クボタ GB150，クボタ GB140，クボタ GB130）の追加にともなって受検したものである。このため，以下の試験成績を転用した。

強度試験，分解調査

1AGAAAPAP112A

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ SF－GB110

合格番号：201015

種　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名

クボタ　GB110

2．主要諸元（最大トラクター）

■型　式　名		：クボタ　GB110
■種　類		：４輪駆動
■質　量（フレーム付き）	kg	：479
■軸　距	mm	：1200
■機関出力／回転速度	kW{PS}/rpm	：7.7{10.5}/3000

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介してディファレンシャルギヤケース部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（２点式）

3．主要寸法　※

項目		単位	値
■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		cm：	88.5
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		cm：	122.0
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		cm：	69.0
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		cm：	－
■戸口の幅	（上部）	cm：	－
	（中部）	cm：	－
	（下部）	cm：	－
■戸口の高さ	（フートプレートから）	cm：	－
■最低位ステップの高さ	（フートプレートの高さ）	cm：	46.5
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	cm：	174.0
■フレームの全幅	（フェンダーを含む）	cm：	85.5
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		cm：	27.5

※1．クボタ　GB110　（タイヤサイズ：前輪 4.00-12 2PR　後輪 7-16 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業㈱，6A340-45702

4．主要材料
■主フレーム：STKR 400, SS 400, SPHC, SPCE
■装着ブラケット：SS 400, SPHC
■組立・装着ボルト：S 45 C, S 40～45 C

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■基準質量：490 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　0.79 kJ｛81 kgf･m｝
　側部負荷　1.80 kJ｛184 kgf･m｝
■圧壊力：7.203 kN｛735 kgf｝

2）試験後のフレームの永久変位
■後　部（前方へ）：右側　7.5 cm　左側　7.0 cm
■側　部（右側方へ）：13.5 cm
■上　部（下方へ）：右側　2.5 cm　左側　0.5 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：10.0 cm

2．騒　音　※
■85 dB(A)［クボタ　GB110］

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

本フレームは任意鑑定受験機（平13任鑑2号）であり，強度試験，分解調査については，任意鑑定の試験成績を転用した。

1AGAAAPAP113A

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ SF−GB110−2

合格番号：201016

種　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ

住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名

クボタ　GB110

2．主要諸元（最大トラクター）

■ 型　式　名　：　クボタ　GB110
■ 種　類　：　4輪駆動
■ 質　量（フレーム付き）　kg　：　502
■ 軸　距　mm　：　1200
■ 機関出力/回転速度　kW{PS}/rpm　：　7.7{10.5}/3000

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介してディファレンシャルギヤケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（２点式）

3．主要寸法　※

項目		単位	値
■ 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		cm：	88.5
■ フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		cm：	122.0
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		cm：	69.0
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		cm：	−
■ 戸口の幅	(上部)	cm：	−
	(中部)	cm：	−
	(下部)	cm：	−
■ 戸口の高さ	(フートプレートから)	cm：	−
■ 最低位ステップの高さ	(フートプレートの高さ)	cm：	46.5
■ フレーム装着時のトラクターの全高	(屋根部材上面まで)	cm：	174.0
■ フレームの全幅	(フェンダーを含む)	cm：	85.5
■ 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		cm：	27.5

※1．クボタ　GB110（タイヤサイズ：前輪 4.00-12 2PR　後輪 7-16 4PR）に装着時。
　2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業㈱，6A340-45702

4．主要材料

■ 主フレーム　：　STKR 400, SS 400, SPHC, SPCE
■ 装着ブラケット　：　SS 400
■ 組立・装着ボルト　：　S 45 C, S 40〜45 C

Ⅲ　検査成績

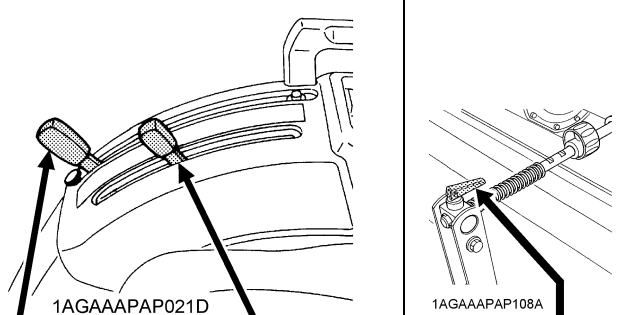
1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。

■ 基　準　質　量　：　490 kg
■ 所要吸収エネルギー　：　後部負荷　0.79 kJ {81 kgf･m}
　　側部負荷　1.80 kJ {184 kgf･m}
■ 圧　壊　力　：　7.203 kN {735 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■ 後　部（前方へ）　：　右側　7.5 cm　左側　6.5 cm
■ 側　部（右側方へ）　：　13.0 cm
■ 上　部（下方へ）　：　右側　2.0 cm　左側　0.5 cm

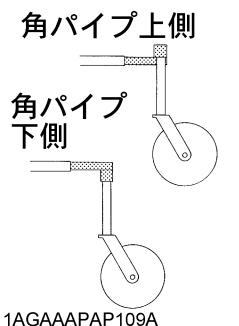
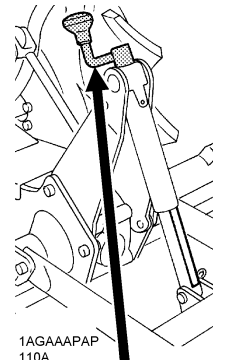
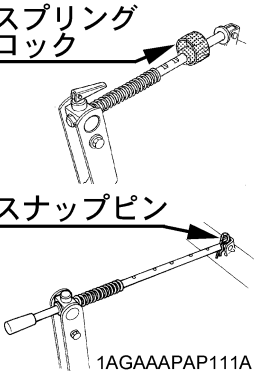
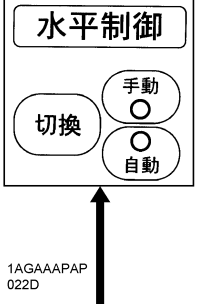
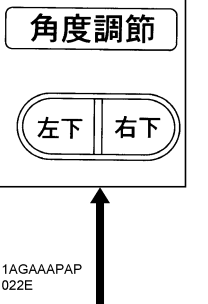
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差　：　10.0 cm

2．騒　音　※

■ 85 dB(A)　[クボタ　GB110]

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

本フレームは任意鑑定受験機（平13任鑑2号）であり，強度試験，分解調査については，任意鑑定の試験成績を転用した。

1AGAAAPAP114A

作業ごとの一般的な調整要領

<table>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">作業内容</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td>油圧レバー</td><td>オート耕深レバー</td><td>オートハンガ</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ポジションコントロール</td><td colspan="2">浅耕こし
（5 ～ 8cm）</td><td rowspan="6">希望耕深になるよう調整
（後２輪付の場合は最下げ位置）</td><td rowspan="6">オート「切」位置</td><td rowspan="5">フリー</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般耕うん
（8 ～ 15cm）</td></tr>
<tr><td colspan="2">深耕こし
（15cm 以上）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">代かき</td><td>一般ほ場</td></tr>
<tr><td>湿田ほ場</td></tr>
<tr><td colspan="2">うね立て</td><td>フリー
ただしカバーの固定はスナップピンで行なってください。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">メカオート
（A 仕様）</td><td colspan="2">浅耕こし
（5 ～ 8cm）</td><td rowspan="5">最下げ位置</td><td rowspan="5">希望耕深になるよう調整</td><td rowspan="5">フリー</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般耕うん
（8 ～ 15cm）</td></tr>
<tr><td colspan="2">深耕こし
（15cm 以上）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">代かき</td><td>一般ほ場</td></tr>
<tr><td>湿田ほ場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">モンローマチック
（M 仕様 ）</td><td colspan="2">水田の耕うん</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">フリー</td></tr>
<tr><td colspan="2">プラウ作業等</td></tr>
</table>

角パイプ上側 角パイプ下側 1AGAAAPAP109A	1AGAAAPAP110A	スプリングロック スナップピン 1AGAAAPAP111A	水平制御 切換 手動 自動 1AGAAAPAP022D	角度調節 左下 右下 1AGAAAPAP022E
後２輪ホルダの上下位置 (後２輪付の場合)	後２輪ハンドル (後２輪付の場合)	接地圧の調整	水平制御切換スイッチ	角度調節スイッチ
角パイプ上側 (後２輪が上がる側)	希望耕深になるよう調整 なお油圧レバーは最下げ位置	希望の接地圧になるよう調整 [スプリングロック又はスナップピンのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，均平・整地に効果があります。]	－	－
角パイプ下側 (後２輪が下がる側)				
角パイプ上側 (後２輪が上がる側)		最前位置		
後２輪を外す	－	希望の接地圧になるよう調整 [スプリングロック又はスナップピンのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，均平・整地に効果があります。]	－	－
－	－	－	自動（水平）	希望の角度になるよう調整
			手動（切）	希望の角度になるよう調整

補　足

＊ 主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。土質など作業条件に合わせ適宜調整してください。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，お買い上げの販売店へ　ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　　　担当　　　　電話（　　）　　－		
ご購入日	型式	車台番号
エンジン型式　　　機番	その他装着型式　　　機番	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所	電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所	電(072)241-8506	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
機械福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部	電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部	電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部	電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部	電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部	電(076)275-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部	電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部	電(072)241-8551	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
米子営業技術推進部	電(0859)33-5011	〒683-0804	米子市米原7丁目1番1号
岡山営業技術推進部	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部	電(087)874-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部	電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部	電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市西堀5丁目2番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部	電(072)241-8550	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
中四国系統推進部	電(087)874-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部	電(092)606-3166	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号

GB115/135/145/155/175
AH．G．2-2．10．AK

Kubota

このマーク は「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

品番　6A540-6251-1

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862